KITAMI
Institute of Technology

Kitami
Institute of
Technology
Center for Regional Community

CRC

Connect

CRC
Center for Regional Community

国立大学法人 北見工業大学
社会連携推進機構

社会連携推進センター CRC

年報 第14号 平成27年度

http://www.crc.kitami-it.ac.jp/

巻 頭 言

～ 大学改革と社会連携 ～



社会連携推進センター長
（社会環境工学科　教授）
川　村　　彰

平成 27 年度社会連携推進センター（以下、ＣＲＣ）年報の発刊に際して、一言ご挨拶を申し上げます。特に、今年度は北見工業大学にとって、将来進むべき方向を明らかにする重要な時機となりました。

文部科学省がかねてより示しております「大学改革実行プラン」を具体化するための「ミッションの再定義」を国立大学は求められており、近年、各大学それぞれの分野の果たしている役割を明確にし、”強み、特色“を打ち出す必要性が一段と高まって参りました。

このような大学改革の流れにあって、文部科学省は大学機能分化の観点から国立大学を3分類する仕組み「三つの重点支援枠」を設け、その枠組みに応じて国立大学運営費交付金の配分を考慮するようになりました。

「三つの重点支援枠」とは、大まかに申し上げると ①地域貢献の教育研究、②特色分野の教育研究、③世界で卓越した教育研究のことであり、本学は①地域貢献の教育研究を選択致しました。①枠（以下、地域枠）の支援とは、「主として、地域に貢献する取り組みとともに、専門分野の特性に配慮しつつ、強み・特色のある分野で世界･全国的な教育研究を推進する取り組み」を中核とする大学に対しての支援であります。本学が地域枠を選択したのは、これまでの大学における教育・研究実績や社会連携活動を踏まえると、極めて自然の流れに沿うものと思われます。

しかしながら、大学にはこれまで以上に社会連携活動の活性化、質的向上、実質化、さらにはその成果の見える化などが問われる状況となり、これらのコア活動に関わるＣＲＣの大学における役割は重要性を増すと思われます。

上記大学改革に伴う大学を取り巻く環境の変化に即した社会連携のあり方を考えると、ＣＲＣの活動は、旧地域共同研究センター時代も含めるとＰＤＣＡサイクルの３サイクル目に入ったものと思われます。1 サイクル目では、大学と地域との連携基盤構築のため地域連携づくりに取り組み、2 サイクル目では、地域課題の発掘と解決支援や地域との会話を通じた連携の活性化を図る活動を主に実施して参りました。今後の3サイクル目では、前述にあります連携活動の実質化、質的向上、達成度に関連する活動などが求められるものと思われます。さらに、これまでのサイクルと比べて、サイクルの回転が速くなることが予想されます。これまで培ってきたＣＲＣの機動力の発揮が大いに期待されるところです。

これらの話題は、大学の”強み、特色”を打ち出すという大学の機能分化・強化が発端ではありますが、幸いこの地域には全国トップレベルのものが豊富に存在します。この地域の気候・風土、自然環境、文化、産業、エネルギー資源などに基づく社会連携活動は、機能強化の主役となることに疑う余地はありません。

時代の要請に応え、地域とともに歩む大学の社会連携に対応するキーフレーズは、原点回帰となりますが、”地（知）の利を活かす“に尽きると考えております。

先の大学改革に呼応して、学部改組の動きも始まっております。様々な大学を取り巻く環境の変化の中で自ら選択した地域枠を、地の利を活かし大学との連携者の皆様のご理解ご協力のもと、実質化につなげる所存でございます。地域の声に応え、地域との協働を目指す大学の社会連携の窓口として、今後ともご支援ご協力頂けますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、私こと今年度を持ちまして任期交代となりました。 任期中、学内外の皆様から格別のご厚情を賜り、誌面をお借りし厚く御礼申し上げます。

社会連携推進センター年報目次

【巻頭言】

～大学改革と社会連携～　　社会連携推進センター長　川　村　彰

１．平成 27 年度活動状況

１）事業計画及び事業報告

平成 27 年度　事 業 計 画 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

平成 27 年度　事 業 報 告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

２）運営組織

スタッフ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

客員教授 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

産学官連携推進員 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

産学官連携推進協力員 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6

３）共同研究等

共同研究・受託研究報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

共同研究の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・10

共同研究受入一覧表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・11

共同研究概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・19

４）産学官連携活動

交流イベント等出展状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・31

５）知的財産活動実績

発明届出・国内特許出願・国内特許登録件数 ・・・・・・・・・・・・・・・40

６）産学連携学会全国大会 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41

７）工学連携推進型地域 6 次産業人材育成事業報告・・・・・・・・・・・・・43

８）各種会議報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48

９）活動日誌 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・52

２．付録

・センター関連規程

・技術相談申込書

1.　平成 27 年度　活動状況

１）事業計画及び事業報告

平成 27 年度事業計画

１．共同研究等外部との連携事業

○中期計画に基づいた共同研究の推進
○科学研究費助成事業等から発生した研究シーズの普及と地域ニーズの発掘
○地域ニーズから研究シーズへと繋がる活動を推進
○特任研究員の採用：菅原　宣義　共同研究等実施予定
○特任教授の採用　：大島　俊之　共同研究等実施予定
○特任教授の採用　：山岸　　喬　共同研究等実施予定

２．イノベーション創出に関する事業

○新技術、知的財産等の創出を推進
・各省庁（農水省、国交省、経産省、総務省等）の施策に提案
・学内研究ユニット等の活動支援
○北見市産学官連携推進協議会の活動支援

３．教育事業（社会人、学生）への支援

○地域産業への貢献を目的とした社会人の育成や学生教育を推進
・学生による地域貢献活動
・地域産業界との教育連携
○人材育成事業、シンポジウム等を客員教授、関連機関との連携により推進
・本学総合工学Ⅱの授業として開講、広く一般市民にも開放
○他機関が開催するセミナー等において、共催、後援の協力を推進
・産学官連携事業にかかるセミナー、国、道、地域が行うセミナー等への協力
○勉強会、研究会の開催
・学内外の研究会等との連携により開催

４．融合事業の推進

○近隣大学、市町村、公設試、包括連携協定機関等との連携を強化
○研究シーズの普及、学生の地域定着等を推進
○地域研究会、産学官連携推進員協力員、包括連携協定機関等との事業を推進
○産学連携学会第 13 回大会（北見大会）の開催

５．産学連携事業に係る広報活動の推進

○各種会議・パネル展への出展（地域特性を含めた PR）
・イノベーション・ジャパン大学見本市（東京）
・北洋銀行ものづくりテクノフェア（札幌）
・ビジネス EXPO（札幌）
・アグリビジネス創出フェア（東京、札幌）
・オホーツク「木」のフェスティバル（北見）、くるるん・きたみ（北見）
○センターの広報活動
・センター年報、センターパンフレットの発刊
・センターホームページのリニューアル
○各種新聞・雑誌等への PR 活動
○同窓会活動との連携による共同研究等の広報活動

６．社会連携推進センター運営にかかる事業

○インキュベーション機能、人材育成事業フォローアップ等の支援
○北見工業大学社会連携推進センター推進協議会（北見市）
○社会連携推進センター運営会議　月１回（学内）
○社会連携推進センターミーティング　週１回（学内）
○専任教員会議（全国）
○国立大学法人共同研究センター長等会議（全国）

平成 27 年度事業報告

１．共同研究等の推進

○中期計画に基づいた共同研究の推進
・93 件（内訳：道外 54 件、道内 15 件、オホーツク圏 24 件）
○競争的資金等外部資金導入に係る提案に関する支援（A-step、科学研究費等）
・JST A-step 事業のコーディネート 11 件実施（内 2 件採択）
○共同研究等の推進活動による、研究シーズの普及と地域ニーズの発掘、教育支援
・工農教育関係（1 件）、医工連関係（2 件）、地域振興関係（1 件）、ノウハウの開示（1 件）、教育支援（2 件）
○特任研究員の採用：菅原　宣義　共同研究分担者 2 件
○特任教授の採用　：大島　俊之　共同研究代表者 1 件
○特任教授の採用　：山岸　喬　　共同研究代表者 3 件

２．イノベーション創出に関する事業

○経産省「産学連携評価モデル・拠点モデル実証事業」自主調査継続中、工農連携研究ユニットとの連携事業
○経産省：「ものづくり・商業・サービス補助金」コーディネート
○農水省：産業クラスター研究会イソップ・コリドール事業推進協議体提案コーディネート
○文科省：COC^{+}申請企画、自主提案は見送り
○国交省（開発局）：連携協定に基づく官学連携活動
○ノーステック財団：事業への協力

３．教育事業（社会人、学生）への支援

○学生による地域貢献活動の推進（マネジメント工学コースを中心として）
・美山小学校、留辺蘂小学校、市町村イベントにおける科学実験教室等
○地域産業界との教育連携
・大学院にて講義（現役社長の講話）
○人材育成事業
・北見市「工学連携推進型地域 6 次産業人材育成事業」=旧「新時代工学的農業クリエーター人材創出プラン（10 期）」、「地域を彩る食物語」（パラボ開催）
○本学「総合工学Ⅱ」の授業として開講、広く一般市民にも開放
知財関係　吉田　芳春（吉田国際特許事務所所長）
舛井　一仁（芝綜合法律事務所弁護士、アースタック税理士法人グループ取締役）
篁　　悟（特許業務法人武和国際特許事務所代表）
技術関係　小山内　裕（㈱フジクラ顧問）
土井　三浩（日産自動車㈱ダイレクター）
福地　博行（㈱福地工業代表取締役）
舟山秀太郎（㈱舟山組代表取締役）
地域関係　二俣　正美（(社)北見工業技術センター運営協会地域産業プロデューサー）
○マネジメント工学コース、産学官連携活動等に協力
知財関係　各務　茂夫（東京大学教授 産学連携本部イノベーション推進部長）
三井　良一（国立大学法人室蘭工業大学客員教授、元 JST 特許主任調査員）
末富　　弘（北海道大学産学・地域協働推進機構　特任教授）
○ビジネスセミナーの開催：北見市産学官連携推進協議会との連携
・㈱インプロバイド　池端宏介デザイナー

○セミナー等の開催協力
・産学連携学会全国大会　(6/25,26)
・北見市技能普及講演会「ピクルスの魅力と可能性（北見発技術による酢を用いて）」(10/26)共催
・釧路公立大学北海道学生研究会 SCAN「合同研究発表会」(12/12)後援
・SCAN インターカレッジフォーラム(札幌 12/23)
・北見市雇用創造協議会事業「日本一の集客実績を持つ道の駅「田園プラザ川場」に学ぶ」(10/28)協力
・北見医工連携研究会「医工連携フォーラム」（3/26）
・北見医師会「オホーツク医学大会」(3/26)、北見医師会「市民フォーラム」(8/22,2/27)協力
・北見市技能普及講演会「ピクルスの魅力と可能性（北見発技術による酢を用いて）商品化」(3/28)共催

４．融合事業の推進（地域研究会、産学官連携推進員・協力員、包括連携協定機関との連携）
○市町村訪問、オホーツク総合振興局内を 1 回ずつ訪問
○東京農業大学、帯広畜産大学との人材育成事業 3 大学合同セミナー(8/21,22)
○日赤看護大学、「オホーツク de あそぼうさい 2015」へオホーツク地域エネルギー環境教育研究会とともに開催協力(3/12)
○オホーツク産学官融合センター事務局会議にて公設試等と月 1 回開催、地域コアの併設
○産業クラスター研究会「麻プロジェクト」、「テレワークプロジェクト」、「イソッププロジェクト」へ協力
○学生定着へ振興局内企業への広報活動により 1 名の定着に協力
○韓国江原大学合同シンポジウム(2/24 韓国)　東京農大と江原大学の協定締結支援
○雪氷懇談会への協力
○北海道中小企業家同友会との連携事業

５．産学連携事業に係る広報活動の推進
○産学官交流イベント等への出展
○センター刊行物の発刊
・センター年報、センターパンフレット
○各種新聞・雑誌等掲載(北海道新聞等別添による)
○同窓会活動との連携による共同研究等の広報活動

６．社会連携推進センター運営にかかる事業
○インキュベーション機能、人材育成事業フォローアップ等の支援
○北見工業大学社会連携推進センター推進協議会（事務局：北見市商工観光部）（4/24）
○北見工業大学産学官連携推進員・協力員合同会議の開催（10/20）
○社会連携推進センター運営会議　月 1 回（学内）
○社会連携推進センターミーティング　週 1 回（学内）
○専任教員会議（香川大学）(9/3～4)
○国立大学共同研究センター長等会議（北見工業大学）（9/17～18）
○地域産業界からの知財相談への対応
○社会人大学院教育新システムの広報

２）運営組織

◆スタッフ

社会連携推進センター	センター長（併任） 社会環境工学科　教授	川村　彰
	センター教員　教授	鞘師　守
	センター教員　教授	有田　敏彦
	産学官連携コーディネーター	内島　典子
札幌地区	産学官連携コーディネーター	橘　邦朋
事務局	研究協力課 地域連携担当係長	斉藤　靖子
	事務補佐員	千葉 真希子

◆客員教授

氏　名	現職名	職務内容	期　間
小山内　裕	㈱フジクラ　顧問	・技術経営、技術管理、技術者倫理に関する指導、講演等	27.4.1～28.3.31
各務　茂夫	東京大学教授　産学連携本部イノベーション推進部長	・産学官連携事業に対する指導・助言等	27.4.1～28.3.31
篁　悟	特許業務法人武和国際特許事務所　代表	・知的財産権の管理・運用・技術移転に関する支援等 ・特許等知的財産権に関する講演等	27.4.1～28.3.31
二俣　正美	社団法人北見工業技術センター運営協会　地域産業プロデューサー	・知的財産活動の推進・指導及び助言等 ・外部機関との知的財産に関する連携等 ・知的財産論・地域学に関連する講義等	27.4.1～28.3.31
舛井　一仁	芝綜合法律事務所　弁護士 アースタック税理士法人グループ　取締役	・教員研究テーマの特許化と学内知財の国内外へのライセンス可能性探索 ・特許化支援に関する共同研究及び事例解説、手法指導等	27.4.1～28.3.31

氏　名	現　　職　　名	職　　務　　内　　容	期　間
吉田　芳春	吉田国際特許事務所 所長	・提案特許の評価・選別、知財戦略等 ・社会貢献へのコミット、手法指導等	27.4.1～28.3.31
三井　良一	国立大学法人室蘭工業大学 客員教授 元独立行政法人科学技術振興機構　特許主任調査員	・大学の知的財産の発掘、権利化、活用及び管理等 ・知的財産活動の推進、指導及び助言等 ・外部機関との知的財産に関する連携等 ・知的財産論・地域学に関連する講義等	27.4.1～28.3.31

◆産学官連携推進員

独立行政法人中小企業基盤整備機構 北海道本部	北見オフィス所長	髙橋　　均
北見商工会議所	オホーツク産学官融合センター長	池田　嘉孝

◆産学官連携推進協力員

一般社団法人北見工業技術センター 運営協会	事業支援課長	進藤　覚弥
公益財団法人オホーツク地域振興機構 北海道立オホーツク圏地域食品加工技術センター	研究課研究員	小林　秀彰
地方独立行政法人北海道立総合研究機構	北見農業試験場研究部長	中津　智史
北　　見　　市	商工観光部工業振興課 産学官連携係長	品田　啓一
網　　走　　市	経済部商工労働課長	田口　　徹
紋　　別　　市	産業部商工労働課長	髙橋　秀明
置　　戸　　町	産業振興課長	坂口　博昭
訓　子　府　町	農林商工課長	村口　鉄哉
佐　呂　間　町	農務課長	平戸　光宏
津　　別　　町	産業振興課主幹	小野　敏明
美　　幌　　町	経済部商工観光グループ 商工観光主幹	小室　秀隆

大空町	産業課参事	秋葉 暢康
遠軽町	経済部商工観光課長	伊藤 雅彦
斜里町	産業部商工観光課長	河井 謙
小清水町	産業課長	久保 弘志
湧別町	まちづくり推進課長	阿部 勉
興部町	産業振興課長	推名 徹
雄武町	産業振興課長	横田 和幸
滝上町	まちづくり推進課係長	清原 尚弘
清里町	総務課参与	本松 昭仁
西興部村	産業建設課長	吉水 一男
北洋銀行北見中央支店	北見中央支店副支店長	寺崎 寿則
北海道銀行	北見支店副支店長	田中 辰男
北見信用金庫	業務部金融総合支援課長	松田 剛一
網走信用金庫	地域振興支援部地域振興支援課長	小林 寿明
遠軽信用金庫	経営戦略グループ営業推進部門 統括役	佐藤 健治
日本政策金融公庫北見支店	国民生活事業融資課長	藤田 久生
日本政策金融公庫旭川支店	中小企業事業融資課長	平井 秀和
帯広畜産大学	地域連携推進センター 人材育成マネージャー	藤倉 雄司
東京農業大学	生物産業学部 地域産業経営学科 准教授	菅原 優
日本赤十字北海道看護大学	看護薬理学領域 教授	根本 昌宏
北海道開発局網走開発建設部	地域振興対策室長	斉藤 敏彦
北海道新聞社北見支社	課長職	村田 孝二
公益財団法人北海道科学技術 総合振興センター	研究開発支援部長	工藤 昌史
網走測量設計協会	副会長	内海 和彦

◆産学官連携推進員・推進協力員合同会議オブザーバー

北　海　道　経　済　産　業　局	地域経済部産業技術課長	佐藤　勝弘
北　海　道　経　済　産　業　局	地域経済部産業技術課 中小企業技術係	比良　文香
オ　ホ　ー　ツ　ク　総　合　振　興　局	商工労働観光課長	佐々木浩司
公益財団法人北海道中小企業総合支援センター	オホーツク支部地域支援課長	卜部　貴志

※ 産学官連携推進員・推進協力員、合同会議のオブザーバーについて

地域との関係をより緊密にするために、周辺自治体から推進員・推進協力員を派遣していただいています。

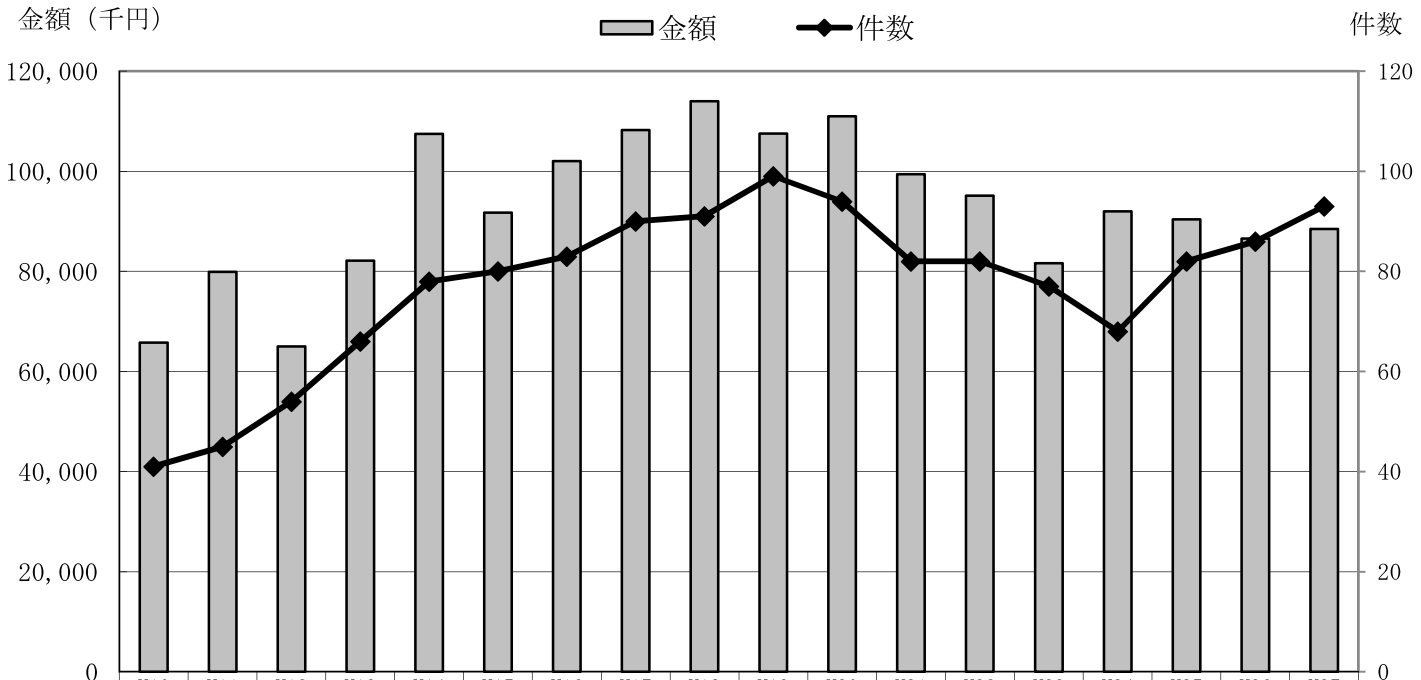
推進員・推進協力員の役割は、各自治体および産業界におけるニーズを円滑に大学へ伝えることで、産学官連携を推進することです。

また、推進員・推進協力員合同会議には、北海道内の各行政機関等からオブザーバーとして参加協力をいただいております。

３）共同研究等

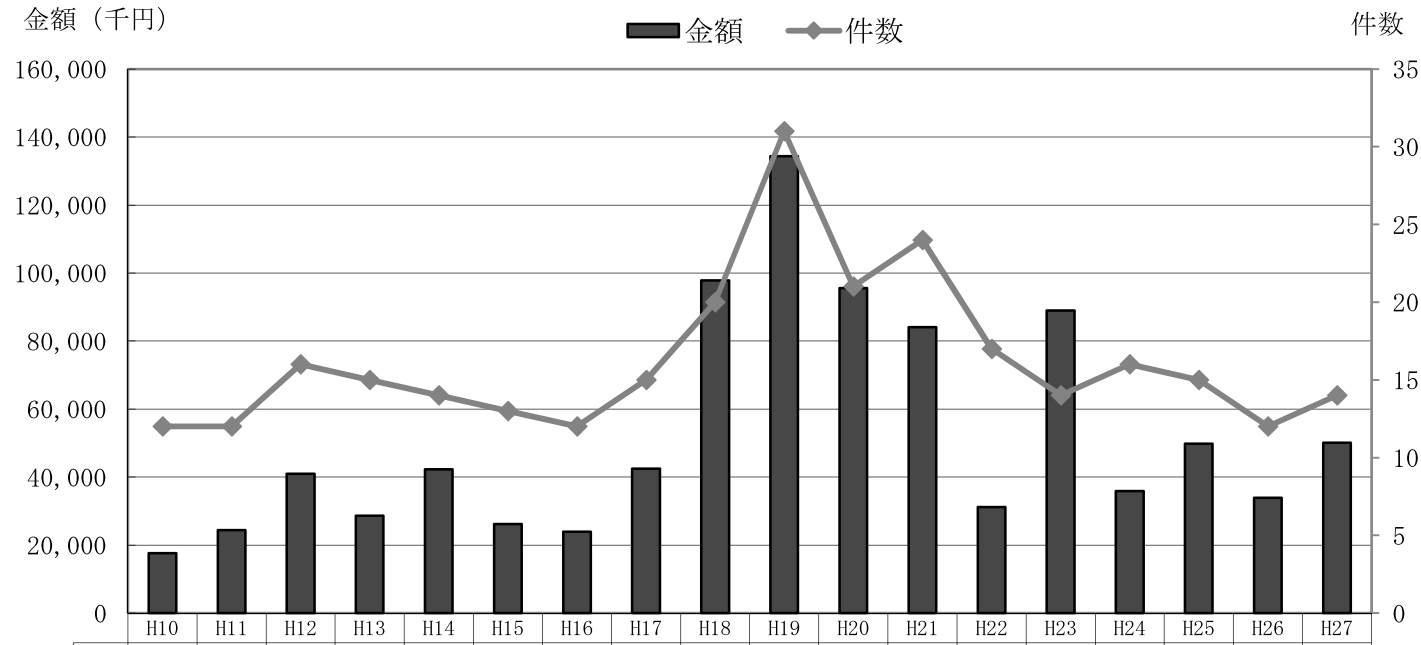
共同研究・受託研究報告（平成 10 年度～平成 27 年度）

共同研究



	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
金額	65,737	79,926	64,977	82,121	107,48	91,728	102,02	108,22	114,02	107,52	110,97	99,401	95,119	81,600	91,972	90,413	86,577	88,489
件数	41	45	54	66	78	80	83	90	91	99	94	82	82	77	68	82	86	93

受託研究

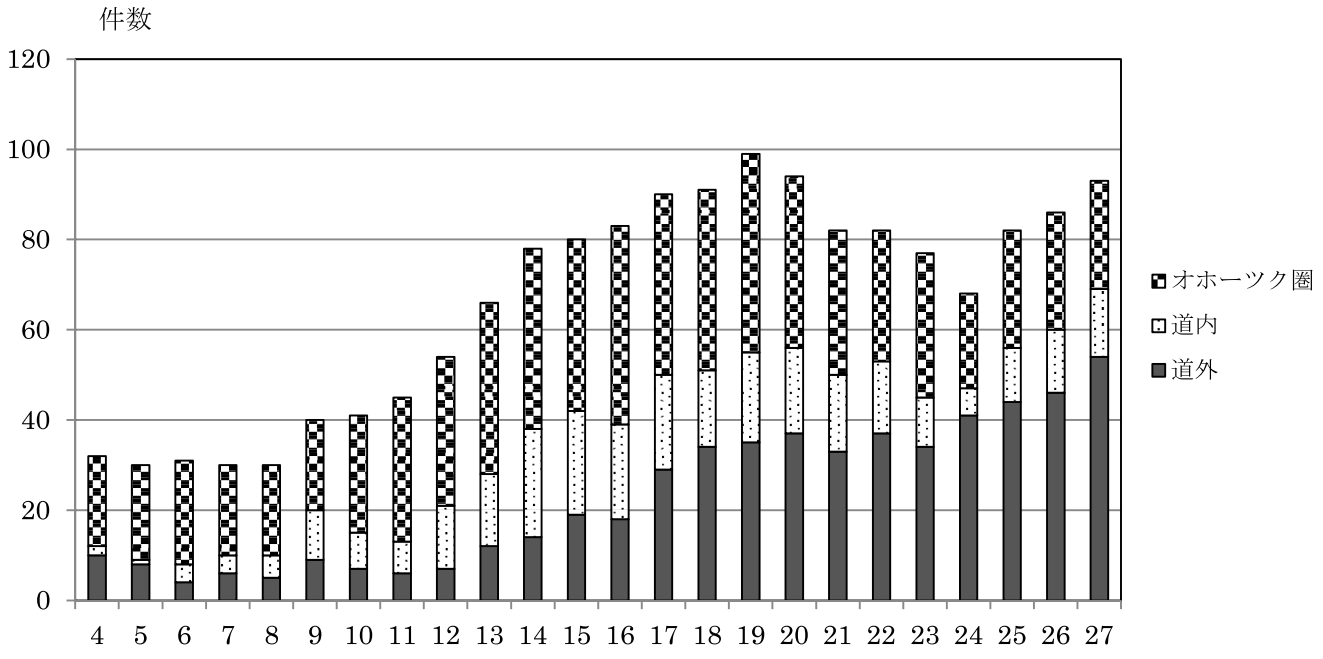


	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27
金額	17,582	24,420	40,950	28,664	42,293	26,144	23,937	42,475	97,795	134,40	95,586	84,095	31,202	88,965	35,885	49,826	33,868	50,105
件数	12	12	16	15	14	13	12	15	20	31	21	24	17	14	16	15	12	14

北見工業大学 共同研究の推移

年 度（平成）	道 外	道 内	オホーツク圏	総 件 数
4	10	2	20	32
5	8	1	21	30
6	4	4	23	31
7	6	4	20	30
8	5	5	20	30
9	9	11	20	40
10	7	8	26	41
11	6	7	32	45
12	7	14	33	54
13	12	16	38	66
14	14	24	40	78
15	19	23	38	80
16	18	21	44	83
17	29	21	40	90
18	34	17	40	91
19	35	20	44	99
20	37	19	38	94
21	33	17	32	82
22	37	16	29	82
23	34	11	32	77
24	41	6	21	68
25	44	12	26	82
26	46	14	26	86
27	54	15	24	93

【共同研究】オホーツク圏・道内・道外



平成 27 年度　共同研究受入一覧表

受付番号	研究代表者			研究題目	受入れ相手先
	氏名	所属	職名		氏名
1	中村　大	社会環境工学科	准教授	積雪寒冷環境が土中埋設管に及ぼす種々の影響についての研究	北海道ガス株式会社　技術開発研究所
2	小原　伸哉	電気電子工学科	教授	両面受光型太陽光発電システムに関する研究	PVG Solutions 株式会社/株式会社 KITABA
3	佐々木　正史	機械工学科	教授	環北極陸域システムの変動と気候への影響	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所
4	亀田　貴雄	社会環境工学科	教授	地球温暖化における北極圏の積雪・氷河・氷床の役割	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所
5	舘山　一孝	社会環境工学科	准教授	北極海航路の利用可能性評価につながる海氷分布の将来予測	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構国立極地研究所
6	大津　直史	機器分析センター	准教授	リン酸カルシウム被覆マグネシウム表面の表面特性に関する研究	独立行政法人物質・材料研究機構
7	有田　敏彦	社会連携推進センター	教授	ポリマーがいしの塩分付着特性に関する研究	東北電力株式会社研究開発センター/日本ガイシ株式会社　電力事業本部　電力技術研究所
8	有田　敏彦	社会連携推進センター	教授	精神科病院のマネジメントに関する研究	医療法人社団　拓美会　玉越病院
9	古瀬　裕章	マテリアル工学科	助教	希土類添加透光性アルミナ多結晶体の創製	独立行政法人物質・材料研究機構
10	舘山　一孝	社会環境工学科	准教授	雪氷状態モニタリング技術の開発	独立行政法人宇宙航空研究開発機構/株式会社センテンシア
11	柏　達也	電気電子工学科	教授	電磁波測定環境における電磁波の反射、吸収の解析	E&C エンジニアリング株式会社

平成 27 年度　共同研究受入一覧表

受付番号	研究代表者			研究題目	受入れ相手先
	氏名	所属	職名		氏名
12	中村　大	社会環境工学科	准教授	積雪寒冷地における切土法面の凍上対策に関する研究	独立行政法人土木研究所寒地土木研究所
13	山田　貴延	機械工学科	教授	潜熱蓄熱によるローエクセルギー活用の研究（小型蓄熱層の研究）	北海道ガス株式会社　技術開発研究所
14	川村　彰	社会環境工学科	教授	高速道路における走行快適性に関する共同研究	株式会社高速道路総合技術研究所
15	前田　康成	情報システム工学科	准教授	知識情報処理技術のヘルスケアへの対応	アドバンストヘルスケア株式会社
16	吉澤　真吾	電気電子工学科	准教授	水中音響通信装置の実証検証	三菱電機特機システム株式会社
17	大津　直史	機器分析センター	准教授	貴金属量低減水素分離膜の劣化原因解析	JX 日鉱日石エネルギー株式会社中央技術研究所
18	三上　修一	社会環境工学科	教授	エポキシ樹脂系コンクリート補修材の寒冷地性能確認試験に関する研究	日本国土開発　株式会社 技術センター
19	川口　貴之	社会環境工学科	准教授	地山補強土工用受圧板の寒冷地適応性向上に関する検討	日特建設株式会社
20	川村　彰	社会環境工学科	教授	STAMPERⅡおよびFWDの測定結果を用いた舗装の構造評価	大成ロテック株式会社
21	川村　彰	社会環境工学科	教授	改良型 STAMPERⅡと FWD を組み合わせた“改良型舗装の評価システム”の補完	ティーアール・コンサルタント株式会社
22	南　尚嗣	マテリアル工学科	教授	網走市における下水汚泥および放流水中成分の長期モニタリング研究	網走市
23	南　尚嗣	マテリアル工学科	教授	網走市能取汚水処理施設における放流水中成分の長期モニタリング研究	網走市
24	黒河　賢二	電気電子工学科	教授	光ファイバへの入力パワー限界に関する検討	日本電信電話株式会社　アクセスサービスシステム研究所

平成 27 年度　共同研究受入一覧表

受付番号	研究代表者			研究題目	受入れ相手先
	氏名	所属	職名		氏名
25	南　尚嗣	マテリアル工学科	教授	紋別市における下水汚泥・放流水中の有害微量成分の定量に関する長期的研究	紋別市下水道事業
26	村田　美樹	マテリアル工学科	教授	美幌町における下水汚泥・放流水中の微量成分の長期モニタリングに関する研究	美幌町
27	浪越　毅	マテリアル工学科	助教	シクロオレフィン系ビニルエーテルポリマーの研究	日本ゼオン株式会社
28	桝井　文人	情報システム工学科	准教授	カーリング競技の戦略シミュレータに関する研究	株式会社 AIS 北海道
29	坂上　寛敏	マテリアル工学科	助教	斜里町における環境試料（下水汚泥・放流水）中の微量環境有害成分の定量に関する長期的研究	斜里町
30	山岸　喬	応用研究推進センター	特任教授	北海道産ハマナスとラベンダー由来の芳香成分の抽出、分離および実用化	株式会社ハーバー研究所
31	大島　俊之	共同研究推進センター	特任教授	社会基盤の維持・補修設計に関わる技術支援制度の実践運用のための共同研究	網走測量設計協会
32	早川　博	社会環境工学科	教授	北見市一般廃棄物処理に関する環境調査並びにごみ質調査共同研究	北見市
33	新井　博文	バイオ環境化学科	准教授	常呂産ニンニク及びタマネギを用いた原料・製品の抗酸化活性に関する研究	日本製薬工業株式会社
34	大津　直史	機器分析センター	准教授	銀徐放性抗菌材料の開発	エビナ電化工業株式会社
35	山岸　喬	応用研究推進センター	特任教授	常呂産タマネギを用いた熟成加工方法に関する研究	日本製薬工業株式会社
36	早川　博	社会環境工学科	教授	北見市環境調査研究（大気、水質、騒音・振動、臭気、ダイオキシン類）	北見市
37	吉田　孝	バイオ環境化学科	教授	硫酸化糖鎖の抗ウイルス性を増強する長鎖アルキル鎖の作用メカニズム	大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所

平成 27 年度　共同研究受入一覧表

受付番号	研究代表者			研究題目	受入れ相手先
	氏名	所属	職名		氏名
38	田村　淳二	電気電子工学科	教授	電力系統-機器連携解析技術に関する研究	株式会社日立製作所研究開発グループ　テクノロジーイノベーション統括本部
39	柴田　浩行	電気電子工学科	教授	超伝導体を用いた検出器の研究	日本電信電話株式会社　ＮＴＴ物性科学基礎研究所
40	小西　正朗	バイオ環境化学科	准教授	寒冷地の効率的浄水処理に関する研究	北見市上下水道局
41	阿部　良夫	マテリアル工学科	教授	エレクトロクロミック材料向けスパッタリングプロセス高速化の研究	株式会社神戸製鋼所技術開発本部
42	有田　敏彦	社会連携推進センター	教授	氷蓄熱式牛乳廃熱利用ヒートポンプ給湯システムの市場性に関する調査研究	合同会社ほっかいどう新エネルギー事業組合
43	石谷　博美	機械工学科	助教	ＰＣＶガス除湿システム基礎研究その２	株式会社ワーカム北海道
44	大津　直史	機器分析センター	准教授	リン酸カルシウム被覆マグネシウム表面の表面特性に関する研究	国立研究開発法人物質・材料研究機構
45	早川　博	社会環境工学科	教授	常呂川水系水質調査研究	常呂川水系環境保全対策協議会
46	川尻　峻三	社会環境工学科	助教	改良土の強度・変形特性に関する研究	公益財団法人鉄道総合技術研究所
47	川村　彰	社会連携推進センター	センター長	メタン直接改質技術による活力ある低炭素地域社会の広域構築	北見市
48	岡崎　文保	バイオ環境化学科	准教授	廃プラスチックガス化反応メカニズムに関する研究	ＪＦＥスチール株式会社
49	小西　正朗	バイオ環境化学科	准教授	麹菌の液体培養に関する研究	キッコーマン食品株式会社商品開発本部
50	杉坂　純一郎	電気電子工学科	助教	フォトニッククリスタルによるレーザー光の取り出しに関する研究	株式会社東芝 生産技術センター

平成 27 年度　共同研究受入一覧表

受付番号	研究代表者			研究題目	受入れ相手先
	氏名	所属	職名		氏名
51	駒井　克昭	社会環境工学科	准教授	自然環境の保全に向けたプロジェクト	株式会社西村組
52	鈴木　聡一郎	機械工学科	教授	スキーブーツのフットベッド用パーツの実用設計に関する研究	ブレイン株式会社
53	川村　みどり	マテリアル工学科	教授	非公表	非公表
54	南　尚嗣	マテリアル工学科	教授	北見市における下水汚泥及び放流水のモニタリング調査研究	北見市上下水道局
55	坂上　寛敏	マテリアル工学科	助教	スクラムミックスセンター臭気成分の定量に関する研究	北見市上下水道局
56	坂上　寛敏	マテリアル工学科	助教	北見市浄化センター臭気成分の定量に関する研究	北見市上下水道局
57	川尻　峻三	社会環境工学科	助教	河川の低水路および高水敷の地盤強度分布把握に対する表面波探査の適用	株式会社開発工営社
58	羽二生　博之	機械工学科	教授	ドローンによる航空測量および農地作柄評価のためのカメラ自動制御システムと画像処理手法の開発	株式会社オホーツク位置情報サービス
59	鈴木　聡一郎	機械工学科	教授	日本人の骨格に適合したスキーブーツ設計に関する研究	株式会社レクザム
60	川口　貴之	社会環境工学科	准教授	積雪寒冷環境における水道管の浅層埋設に関する研究	北見市上下水道局
61	川村　彰	社会環境工学科	教授	舗装剥離現象の原因に関する研究	北見市
62	伊藤　英信	マテリアル工学科	准教授	光触媒フィルターの開発に関する研究	一般社団法人北見工業技術センター運営協会
63	井上　真澄	社会環境工学科	准教授	温水循環式エアヒーターを用いたコンクリート給熱養生システムの構築	エクセン株式会社
64	井上　真澄	社会環境工学科	准教授	耐寒促進剤を用いたコンクリートの冬期施工に関する研究	国立研究開発法人土木研究所　寒地土木研究所

平成 27 年度　共同研究受入一覧表

受付番号	研究代表者			研究題目	受入れ相手先
	氏名	所属	職名		氏名
65	舘山　一孝	社会環境工学科	准教授	路面雪氷センシング技術の高度化に関する研究	国立研究開発法人土木研究所　寒地土木研究所
66	酒井　大輔	電気電子工学科	助教	ＵＶナノインプリントを用いた次世代光学素子の開発	丸善石油化学株式会社/国立大学法人北海道大学
67	曽根　宏靖	情報システム工学科	准教授	ファイバレーザーによる超広帯域光の発生に関する研究	国立研究開発法人産業技術総合研究所/国立大学法人茨城大学
68	小原　伸哉	電気電子工学科	教授	エコアイランド及びガスハイドレート発電システムのエネルギー制御実験と、周辺技術のビジネス化の検討	リコーＩＴソリューションズ株式会社
69	川村　彰	社会環境工学科	教授	非公表	非公表
70	松村　昌典	機械工学科	准教授	住宅用２４時間換気システムに関する研究	ケイ・マック株式会社北海道
71	髙橋　理音	電気電子工学科	准教授	小型風力発電システムを用いた電力および熱供給制御システムの開発	オホーツク新エネルギー開発推進機構
72	吉澤　真吾	電気電子工学科	准教授	非公表	非公表
73	三浦　克宜	情報処理センター	講師	インタークラウドにおける多目的最適化手法を用いた、IT サービスの継続的最適配置に関する共同研究	ＳＣＳＫ株式会社/国立大学法人北海道大学
74	白川　龍生	社会環境工学科	准教授	積雪の断熱効果を利用した冬季向け温度差発電システムの開発	北見市/企業組合北見産学医協働センター
75	中村　大	社会環境工学科	准教授	寒冷地における凍結深度の推定に対する地中レーダの有効性についての研究	越前屋試錐工業株式会社
76	川口　貴之	社会環境工学科	准教授	連続繊維補強土の変形強度特性に及ぼす浸水条件と固化材添加の影響	日特建設株式会社

平成 27 年度　共同研究受入一覧表

受付番号	研究代表者			研究題目	受入れ相手先
	氏名	所属	職名		氏名
77	林田　和宏	機械工学科	准教授	ディーゼル機関の軽負荷燃焼の改善―白煙、臭気に関する研究	いすゞ自動車株式会社 エンジン実験第一部
78	宇都　正幸	マテリアル工学科	准教授	農業用資材梱包用ポリマーの耐寒性評価	ホクレン包材株式会社
79	宮森　保紀	社会環境工学科	准教授	低温環境下における免震ゴムの性能評価試験	住友理工株式会社 化工品技術部
80	川村　彰	社会環境工学科	教授	高速道路における走行快適性に関する共同研究	株式会社高速道路総合技術研究所
81	川村　彰	社会環境工学科	教授	帯状ガイドライトの視認性評価に関する調査研究	株式会社ネクスコ・エンジニアリング東北
82	杉坂　純一郎	電気電子工学科	助教	面発光レーザー向けフォトニッククリスタルについての研究	株式会社東芝　生産技術センター
83	石谷　博美	機械工学科	助教	ＰＣＶガス除湿システム基礎研究その３	株式会社ワーカム北海道
84	柏　達也	電気電子工学科	教授	市街地における MUSIC 法を用いた到来波特性の研究	株式会社本田技術研究所四輪 R&D センター
85	前田　康成	情報システム工学科	准教授	エゾ鹿の有効活用および地産地消を目的としたレシピ開発	北見工業大学生活協同組合
86	井上　真澄	社会環境工学科	准教授	機能性コンクリートに適用する化学混和剤の研究	日産化学工業株式会社　化学品事業部
87	川口　貴之	社会環境工学科	准教授	寒冷地に造成された土構造物の品質管理に対する表面波探査の適用性	北見土木技術協会
88	大橋　鉄也	機械工学科	教授	先端半導体デバイスにおける応力・転位解析とデバイスシミュレーションとの連携解析	学校法人五島育英会東京都市大学
89	武山　眞弓	電気電子工学科	准教授	気相成長技術による薄膜作製の共同研究	気相成長株式会社

平成 27 年度　共同研究受入一覧表

受付番号	研究代表者			研究題目	受入れ相手先
	氏名	所属	職名		氏名
90	舘山　一孝	社会環境工学科	准教授	着氷モニタリングシステムの研究	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構/国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所
91	山田　貴延	機械工学科	教授	潜熱蓄熱によるローエクセルギー活用の研究（小型蓄熱層の研究）	北海道ガス株式会社　技術開発研究所
92	川口　貴之	社会環境工学科	准教授	寒冷地における地山補強土工の適用性	日特建設株式会社
93	有田　敏彦	社会連携推進センター	教授	ハイブリッド型看板装置の耐久性に関する研究	コスモスファクトリー

◆平成 27 年度　共同研究概要◆

（民間機関等及研究代表者から公開の確認を得たもののみ掲載しています。）

2（平成 24,25,26,27 年複数年度契約）

研 究 題 目	両面受光型太陽光発電システムに関する研究		
研究代表者	小原　伸哉	民 間 機 関 等	PVG Solutions 株式会社/株式会社 KITABA
研 究 概 要	オホーツク地域の特性や資源を生かした両面受光型太陽光発電システムの試験評価と、受光形態の最適化について研究する。積雪寒冷地への導入を目指した自然エネルギーに関わる研究であり、企業および自治体(北海道、北見市)との連携プロジェクトであることから、本学の目指す自然と調和するエネルギーの研究と合致するものと考える。		

3（平成 24,25,26,27 年複数年度契約）

研 究 題 目	環北極陸域システムの変動と気候への影響		
研究代表者	佐々木　正史	民 間 機 関 等	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所
研 究 概 要	急変する北極気候システムの変動状況を、海洋・大気・陸域・雪氷・生態系の分野にわたり総合的に把握し、その結果を気候変動予測モデルに反映させて予測モデルの高度化・精緻化を図り、北極気候システムの変化が我が国や全球にもたらす影響を評価することを目的とした共同研究を実施する。 また、北極環境研究の効果的・効率的実施に必要な研究基盤の整備・提供を図る。併せて、我が国の北極環境研究の総合力を高めるため北極環境研究者が All Japan で結集するネットワーク組織「北極環境研究コンソーシアム」の事務局の運営業務を行う。		

5（平成 24,25,26,27 年複数年度契約）

研 究 題 目	北極海航路の利用可能性評価につながる海氷分布の将来予測		
研究代表者	舘山　一孝	民 間 機 関 等	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所
研 究 概 要	急変する北極気候システムの変動状況を、海洋・大気・陸域・雪氷・生態系の分野にわたり総合的に把握し、その結果を気候変動予測モデルに反映させて予測モデルの高度化・精緻化を図り、北極気候システムの変化が我が国や全球にもたらす影響を評価することを目的とした共同研究を実施する。 また、北極環境研究の効果的・効率的実施に必要な研究基盤の整備・提供を図る。併せて、我が国の北極環境研究の総合力を高めるため北極環境研究者が All Japan で結集するネットワーク組織「北極環境研究コンソーシアム」の事務局の運営業務を行う。		

10（平成 25,26,27,28 年複数年度契約）

研 究 題 目	雪氷状態モニタリング技術の開発		
研究代表者	舘山　一孝	民間機関等	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構/ 株式会社センテンシア
研 究 概 要	冬季運航効率の向上のため、空港滑走路の雪氷状態量(雪氷の質や量)を光の散乱強度でモニタリングするための滑走路埋め込み式雪氷センサーを開発する。JAXA がセンサーを設計し、センテンシアが実際にセンサーを製作する。本学は低温室実験や屋外観測の設備を提供し、観測の支援とデータ解析を行う。		

11（平成 26,27 年複数年度契約）

研 究 題 目	電磁波測定環境における電磁波の反射、吸収の解析		
研究代表者	柏　達也	民間機関等	E&C エンジニアリング株式会社
研 究 概 要	電磁波測定システムに使用される電磁環境および電磁波の反射・吸収材料の解析計算と実測値の比較検討。		

19

研 究 題 目	地山補強土工用受圧板の寒冷地適応性向上に関する検討		
研究代表者	川口　貴之	民間機関等	日特建設株式会社
研 究 概 要	地山に補強材（鉄筋等）を挿入することで斜面の安定化を図る地山補強土工法の補強効果は、補強材と地山が一体化することで発揮され、その補強材の頭部を表面材（法枠工や受圧板など）と連結することでより効果的なものになる。 寒冷地では、斜面が凍上することで、表面材（受圧板）が破壊されてしまうことがあり、地山補強土工法の適用が敬遠されることがある。 本研究は、地山補強土工用受圧板の寒冷地での挙動を把握することで、低温・凍上環境下での受圧板に耐久性を持たせるための手法や構造的改良について検討し、地山補強土工法の寒冷地適用性の向上に寄与することを目的とする。		

28

研 究 題 目	カーリング競技の戦略シミュレータに関する研究		
研究代表者	桝井　文人	民間機関等	株式会社 AIS 北海道
研 究 概 要	研究目的:カーリング競技の戦術面における支援環境と情報分析手段を提供し、日本のカーリング競技レベルの底上げに貢献する 研究内容:試合ごとのアイスやストーンの状態のような未知量を物理シミュレーションで明らかにし、試合結果データベースと合わせることで、より高度な戦略シミュレーションを可能にする		

32

研 究 題 目	北見市一般廃棄物処理に関する環境調査並びにごみ質調査共同研究		
研究代表者	早川　博	民間機関等	北見市
研 究 概 要	北見市廃棄物処理場及び昭和埋立処分場汚水処理施設における排水等の環境調査並びにごみ質調査等を行い、より専門的な解析評価を加えることにより施設の適正運営を図り、環境等への負荷を最小化することを目的とする。		

36

研 究 題 目	北見市環境調査研究(大気、水質、騒音・振動、臭気、ダイオキシン類)		
研究代表者	早川　博	民間機関等	北見市
研 究 概 要	北見市における大気、水質、騒音・振動、臭気、ダイオキシン類に関わる環境調査研究をより専門的な角度から実施し、結果の解析評価から環境保全対策の一層の推進を図る。		

37

研 究 題 目	硫酸化糖鎖の抗ウイルス性を増強する長鎖アルキル鎖の作用メカニズム		
研究代表者	吉 田　　孝	民 間 機 関 等	大学共同利用機関法人自然科学研究機構分子科学研究所
研 究 概 要	本研究ではウイルスモデルとしてリポソームを用いて、長鎖アルキル鎖を導入した硫酸化糖鎖や硫酸化オリゴ糖鎖との相互作用を表面プラズモン共鳴装置(SPR)、光散乱測定装置(DSL)、ゼータ(ζ)電位測定装置、高分解能 NMR 装置など複数の大型分析装置を用いて定量的に調べ、長鎖アルキル鎖の作用メカニズムの解明を行うことを目的とする。		

40

研 究 題 目	寒冷地の効率的浄水処理に関する研究		
研究代表者	小 西　正 朗	民 間 機 関 等	北見市上下水道局
研 究 概 要	本研究は、寒冷地における高効率浄水処理技術の確立を目的に、北見市の水道水源である常呂川表流水を対象として、パイロットプラントによる STR を指標とした凝集剤注入率の制御。アルミ系凝集剤と鉄系凝集剤を用いた後凝集強化注入の検討を行う。また、天日乾燥汚泥の有効利用についても模索する。		

45

研 究 題 目	常呂川水系水質調査研究		
研究代表者	早 川　　博	民 間 機 関 等	常呂川水系環境保全対策協議会
研 究 概 要	常呂川水系の広域的な水質の調査をより専門的な角度から実施し、結果の解析評価から関係自治体による常呂川水系全域にわたる総合的な環境保全対策の推進を図る。		

46

研 究 題 目	改良土の強度・変形特性に関する研究		
研究代表者	川尻　峻三	民 間 機 関 等	公益財団法人鉄道総合技術研究所
研 究 概 要	盛土材料の沈下特性や注入材の含浸による強度・変形特性の変化の確認および定量化などを目的に共同研究を実施する。		

47

研 究 題 目	メタン直接改質技術による活力ある低炭素地域社会の広域構築		
研究代表者	川 村　　彰	民 間 機 関 等	北見市
研 究 概 要	平成20年度エコイノベーション推進事業、調査研究「メタンを水素とナノ炭素に直接改質する新技術と温暖化抑制効果」の調査成果を踏まえ、可搬型の反応装置を開発し、CO2 フリーメタン改質技術で製造されたナノ炭素を各地の企業に提供して用途開発を促す。メタン原料としては地域社会のバイオガスも用いる。		

52

研 究 題 目	スキーブーツのフットベッド用パーツの実用設計に関する研究		
研究代表者	鈴木　聡一郎	民 間 機 関 等	ブレイン株式会社
研 究 概 要	これまでに、アルペンスキー競技の競技成績と選手がターンする際の下肢の内傾角度に強い相関が認められることを実験的に明らかにした。 このことは、スキーブーツ内部の設計により選手の内傾角速度を増加させることができれば、競技成績を向上するスキーブーツを開発することができることを示唆している。 そこで本研究では、競技成績の向上効果があるスキーブーツ用パーツとして、フットベッド底面に装着するパーツの実用設計を検討する。		

54

研 究 題 目	北見市における下水汚泥及び放流水のモニタリング調査研究		
研究代表者	南　　尚 嗣	民 間 機 関 等	北見市上下水道局
研 究 概 要	下水処理とは物理学・化学・生物学などの原理を応用して、人工的に下水をある程度まで安全・安定化することである。現時点においては、下水処理プロセスに固液分離操作が必ず組み込まれており、下水処理工程から無機性もしくは有機性の汚泥を生ずる。この汚泥及び処理水をどのように処分するか決定するためにはその安全性について研究する必要がある。 本研究は排水基準等に基づいて、長期間に渡って下水汚泥・放流水などの安全性について検討することを目的としている。		

55

研 究 題 目	スクラムミックスセンター臭気成分の定量に関する研究		
研究代表者	坂 上　寛 敏	民 間 機 関 等	北見市上下水道局
研 究 概 要	北見地区スクラムミックスセンターは北見地域で収集されたし尿を前処理し貯留した後、浄化センターに圧送し処理をしている。この過程で発生する臭気成分は脱臭設備により処理されて排出されているが、装置の運転状況などによってはこの臭気が拡散し、地域住民に不快感を与えることも考えられる。 このため、施設で発生する臭気成分の濃度を測定することによって臭気成分の周辺地域への影響を調べるとともに、脱臭設備の効率的な運転方法の調査研究を目的としている。		

56

研 究 題 目	北見市浄化センター臭気成分の定量に関する研究		
研究代表者	坂 上　寛 敏	民 間 機 関 等	北見市上下水道局
研 究 概 要	浄化センターからは下水処理工程により大量の放流水とともに無機性もしくは有機性の汚泥が排出される。この汚泥及び処理水から発生する臭気成分は季節や気象条件などによって周辺地域へ拡散し、地域住民に不快感を与えることがあり、時には健康に悪影響を及ぼすことも考えられる。このようなことから、下水汚泥及び放流水から発生する臭気成分の定量に関する研究を行う必要がある。 本研究では、臭気成分の濃度や臭気指数を測定することによって臭気成分の周辺地域への影響を調べるとともに、防臭方法の検討も行う観点より研究することを目的としている。		

57

研 究 題 目	河川の低水路および高水敷の地盤強度分布把握に対する表面波探査の適用		
研究代表者	川尻　峻三	民 間 機 関 等	株式会社開発工営社
研 究 概 要	洪水による河川の洗掘深予測には、河床変動予測モデルを用いる。この予測モデルでは、初期条件となる地盤強度の分布を正確に把握することによって、解析結果の精度向上が期待できる。 しかし、現在の地盤強度推定手法は地盤表層部での点情報であり、広範囲に2次元的な情報を得るためには多大な労力を必要とする。 本研究では、地盤強度に関係するパラメーターの2次元的な分布を迅速に取得できる表面波探査の適用性について検討する。		

58

研 究 題 目	ドローンによる航空測量および農地作柄評価のためのカメラ自動制御システムと画像処理手法の開発		
研究代表者	羽二生　博之	民 間 機 関 等	株式会社オホーツク位置情報サービス
研 究 概 要	本研究は、道路建設等のための土木測量や近赤外線及び遠赤外線を用いた農地の作柄や暗渠の必要箇所を把握するためのドローン（マルチコプター）を用いた空撮における小型軽量カメラシステムの開発とその画像処理手法を開発する。 特に可視光、近赤外線、遠赤外線の各カメラを重量制限の中でドローンの限られたスペースに同時に搭載することを主な課題とする。		

59

研 究 題 目	日本人の骨格に適合したスキーブーツ設計に関する研究		
研究代表者	鈴木　聡一郎	民 間 機 関 等	株式会社レクザム
研 究 概 要	スキーヤーが技術習得する際に、スキーヤーの骨格を基本とした身体的特徴と、スキーブーツの基本設計のマッチングが非常に重要となる。スキーブーツの多くは欧州からの輸入品であり、欧米人と日本人の骨格の違いが大きな問題となる。 そこで本研究では、ブーツの基本設計と骨格の特徴との関係を明らかにし、設計要素がスキー技術に及ぼす影響を定量的に検討する。その結果、日本人の身体的特徴に適合したスキーブーツ設計を明らかにする。		

60

研 究 題 目	積雪寒冷環境における水道管の浅層埋設に関する研究		
研究代表者	川口　貴之	民 間 機 関 等	北見市上下水道局
研 究 概 要	本研究は、北見市において水道管を浅層埋設するための技術を検証することを目的に、積雪寒冷環境が水道管に及ぼす地中の温度分布、作用する応力など種々の影響について計測、分析するとともに、最適な埋設深度及び効率的な断熱材の設置位置についての検討、評価を実施する。		

65

研 究 題 目	路面雪氷センシング技術の高度化に関する研究		
研究代表者	舘山　一孝	民 間 機 関 等	国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所
研 究 概 要	研究目的：本研究は路面上の雪氷の状態（水・雪・氷の量）、すべりやすさを交通の支障とならずに定量的かつ高精度に測定するセンシング技術を開発し、路面雪氷管理の一層の効率化・高度化に資することを目的とする。 研究内容：北見工業大学と寒地土木研究所が様々な路面状態（乾燥・湿潤・圧雪・凍結）をマイクロ波と近赤外線で観測し、データ解析を行うことで路面上の雪氷の状態（水・雪・氷の量）、すべりやすさを、定量的かつ高精度に測定するセンシング技術を開発・提案する。		

67（平成 22,23,24,25,26,27,28 年複数年度契約）

研 究 題 目	ファイバレーザーによる超広帯域光の発生に関する研究		
研究代表者	曽根　宏靖	民 間 機 関 等	国立研究開発法人産業技術総合研究所/国立大学法人茨城大学
研 究 概 要	1)高出力超短パルスイッテルビウムファイバーレーザーを開発する。 2)ファイバレーザーを高非線形ファイバに導入し、超広域帯光源を発生させる。		

71

研 究 題 目	小型風力発電システムを用いた電力および熱供給制御システムの開発		
研究代表者	髙橋　理音	民 間 機 関 等	オホーツク新エネルギー開発推進機構
研 究 概 要	研究目的：高効率な住宅向け小型風力発電システムならびに冬季の熱供給システムの設計開発 研究内容：小型風力発電システムにおいて不可欠な蓄電池にかかるコストを低減するため商用電源併用とし、かつ電力供給先を自動切り替えにして変動風速の下でも風力利用効率を高める制御システムを開発する。 　また、余剰電力を蓄熱に用いて冬季の熱供給に利用するための装置構成を検討する。		

74

研 究 題 目	積雪の断熱効果を利用した冬季向け温度差発電システムの開発		
研究代表者	白川　龍生	民 間 機 関 等	北見市/企業組合北見産学医協働センター
研 究 概 要	研究目的：積雪の断熱効果による気温と地温の温度差を利用し、これを熱素子によって電気エネルギーに変換、オフグリッド型の発電するシステムを開発する。 研究内容：冬期に需要がある吹雪時の視線誘導灯など交通施設への利用を想定した研究開発を進める。		

76

研 究 題 目	連続繊維補強土の変形強度特性に及ぼす浸水条件と固化材添加の影響		
研究代表者	川口　貴之	民 間 機 関 等	日特建設株式会社
研 究 概 要	平成26年度までの共同研究により、連続繊維補強土が飽和状態になるとせん断強度が低下し不安定化することが明らかになった。また、これまでの研究により、連続繊維補強土に少量の固化材を添加すると、せん断強度が増加することが明らかになっており、飽和状態でのせん断強度低下の低減も期待出来る。 　そこで、固化剤を混合した連続繊維補強土の飽和状態におけるせん断強度特性を把握し、その効果を確認する。また、固化剤を添加した連続繊維補強土に関する設計上の留意点、使用材料の検討等を実施する。		

78

研 究 題 目	農業用資材梱包用ポリマーの耐寒性評価		
研究代表者	宇都　正幸	民 間 機 関 等	ホクレン包材株式会社
研 究 概 要	北海道など寒冷地において農業用資材の運搬、保存等に用いられるポリマー性梱包材は極低温下で長期間暴露される過酷な使用条件での安定性を求められる。 本研究では、社会連携推進センターの低温室において氷点下環境で各種ポリエチレン袋の物理的特性試験を20kg肥料充填の状態で実施する。		

84

研 究 題 目	市街地における MUSIC 法を用いた到来波特性の研究		
研究代表者	柏　達也	民 間 機 関 等	株式会社本田技術研究所四輪 R&D センター
研 究 概 要	実際の放送波の電波環境特性を推定するには MUSIC 法を用いて到来波の角度及び遅延時間などの特性を推定する必要がある。しかし，市街地等における電波環境特性は直接波だけが到来する環境ではなく、電波が建物等に反射してくる。従って、北見工大が市街地環境で構築している解析手法を取り入れて詳細に解析し、今後の放送波及び ITS に伴う車々間通信おける到来波特性の推定を構築する。		

87

研 究 題 目	寒冷地に造成された土構造物の品質管理に対する表面波探査の適用性		
研究代表者	川口　貴之	民 間 機 関 等	北見土木技術協会
研 究 概 要	盛土などの土構造物において、短時間豪雨による土中水分量の急増や冬季間の凍結融解により、地盤の力学的性質が大きく変化することに対しての品質管理手法として、非破壊試験である表面波探査の適用性を検証することを目的とする。内容は、意図的に締固め度合いを変えた盛土を構築し、表面波探査で締固めの違いを的確に表現しうるかを検証するものとする。		

89

研 究 題 目	気相成長技術による薄膜作製の共同研究		
研究代表者	武山　眞弓	民 間 機 関 等	気相成長株式会社
研 究 概 要	北見工業大学に設置されている気相成長装置（CVD，ALD）装置を用いて窒化ケイ素薄膜の作製を行い、作製された薄膜の分析によってその機能を研究する。		

90

研 究 題 目	着氷モニタリングシステムの研究		
研究代表者	舘山　一孝	民 間 機 関 等	国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構/国立研究開発法人土木研究所寒地土木研究所
研 究 概 要	航空機の安全運航および安全な道路交通の脅威となる着氷を検知する技術の構築を目的とする。		

92

研 究 題 目	寒冷地における地山補強土工の適用性		
研究代表者	川口　貴之	民 間 機 関 等	日特建設株式会社
研 究 概 要	昨年度の共同研究成果として、寒冷地に適した地山補強土工用受圧板の性能や構造が明らかとなった。また、昨年度の共同研究成果より凍土作用等により地山補強土工が本来の機能を十分に発揮しなくなる恐れがあり、寒冷地における地山補強土工の構造を見直す必要のあることが示唆された。 本研究では、地山補強土工の寒冷地での挙動を把握することで、凍上作用等が生じる環境下での問題点を明らかにし、寒冷地に適した地山補強土工の構造を検討し、地山補強土工法の寒冷地適用性の向上に寄与することを目的とする。		

93

研 究 題 目	ハイブリッド型看板装置の耐久性に関する研究		
研究代表者	有田　敏彦	民 間 機 関 等	コスモスファクトリー
研 究 概 要	ハイブリッド型看板装置の、主に交通広告用途、公共性の高い場所での運用における温度、湿度などの環境条件の変化による信頼性などの検証、万一現場の事故が発生した場合の原因調査などを行う。		

４）産学官連携活動

交流イベント等出展状況

No	開催日	イベント名	開催場所
1	4/20 （月）	北海道中小企業化同友会オホーツク支部総会	北見市 （ホテル黒部）
2	5/22 （金） ～24 （日）	第 30 回 2015 オホーツク「木」のフェスティバル http://www.owp.or.jp/fes/fes.html	北見市 （サンドーム北見）
3	7/8 （水） ～10 （金）	テクノトランスファーin かわさき 2015 第 28 回先端技術見本市	神奈川県川崎市 （かながわサイエンスパーク）
4	7/23 （木）	北洋銀行ものづくりテクノフェア 2015 http://hokuyo-monotec.jp/	札幌市 （アクセスサッポロ）
5	7/23 （木）	共同研究発掘フェア in 北洋銀行ものづくりテクノフェア 2015 ～産学官金連携で「まち・ひと・しごと創成」の実現を～	札幌市 （アクセスサッポロ）
6	8/27 （木） ～28 （金）	イノベーション・ジャパン 2015 大学見本市 http://www.innovation-japan.jp	東京 （東京ビッグサイト）
7	9/2 （水） ～ 3 （木）	インフォメーションバザール inTokyo2015	東京 （池袋サンシャインシティ）
8	10/14 （水） ～16 （金）	2015 年秋季大会産学ポスターセッション	福岡県北九州市 （西日本総合展示場）
9	11/4 （水） ～7 （土）	メッセナゴヤ 2015 http://www.messenagoya.jp/	愛知県名古屋市 （ポートメッセなごや）
10	11/5 （水） ～6 （金）	ビジネス EXPO 第 29 回北海道技術・ビジネス交流会 http://www.noastec.jp/business/	札幌市 （アクセスサッポロ）
11	11/18 （水） ～20 （金）	アグリビジネス創出フェア 2015 http://agribiz-fair.jp/	東京 （東京ビッグサイト）
12	11/27 （金） ～28 （土）	2015 アグリビジネス創出フェア in Hokkaido	札幌市 （サッポロファクトリー）
13	1/13 （水） ～18 （月）	地域を彩る食物語	北見市 （コミュニティープラザ Parabo）
14	1/22 （金） ～24 （日）	札幌モーターショー2016 「自動車産業ゾーン」	札幌市 （札幌ドーム）
15	3/8 （火）	JST 新技術説明会 北海道地域４大学１高専１公設試新技術説明会	東京 （JST 東京本部別館）

■イベント名：北海道中小企業化同友会オホーツク支部総会
■日時：4 月 20 日（月）
■会場：ホテル黒部（北見市）

本学が平成 16 年に包括協定を結んだ北海道中小企業家同友会オホーツク支部の総会第 2 部で、本学内島産学官連携コーディネーターが「大学の活用」について特別報告を行った。この報告は、2 月 23 日に特定非営利活動法人産学連携学会北海道支部が主催し、北海道中小企業家同友会オホーツク支部と本学社会連携推進センターが共催して開催したシンポジウム「地域企業による『大学活用の成功事例』と『大学の使い方』」における大学からの発信情報を、改めて会員の皆様に広く報告するために実現した。

会場に集まった約 70 人の北海道中小企業家同友会オホーツク支部の方々に、具体的に大学を活用する視点や大学を活用する際の窓口を知っていただく機会となった。


大学を PR する内島コーディネーター

■イベント名：第 30 回 2015 オホーツク「木」のフェスティバル
■日　　時：5 月 22 日（金）～24 日（日）
■会　　場：サンライフ北見、サンドーム北見（北見市）

本イベントは、3 万人以上の来場者を迎える北見地域において最大のイベントである。今回は、本学からマネジメント工学コースの学生が 3・4 年生を中心に参加した。

子供を対象とした「木と遊ぼう」のコーナーでは、「絵馬を作ろう」をテーマに、端材から子供と一緒に絵馬を作成した。また、ポスター展示では、地域の特色を色濃く反映したスキーブーツ、カーリング技術、南極氷床ボーリング技術、海氷、雪氷などに関する研究をパネルで紹介し、広く大学の広報を行った。本学ブースには幅広い年齢の人が訪れ、地域の人々との交流の場となった。


木工体験の様子


参加者の作成した絵馬

■イベント名：第 28 回先端技術見本市 テクノトランスファーin かわさき 2015
■日　　時：7 月 8 日（水）～10 日（金）
■会　　場：かながわサイエンスパーク[KSP]（神奈川県川崎市）

本イベントには128の組織・機関からの出展があり、約7千8百人が来場した。川崎市産学連携コーナーには本学も含め大学などの17機関が参加した。会場に設けられたコーナーで開催された「技術シーズ提供セミナー」では、本学内島産学官連携コーディネーターが、北見地域の環境を含めた大学の特徴を知っていただくための40分間のプレゼンテーションを行っ

た。セミナーの定員となる約20人のご参加をいただき、技術広報、大学広報として参加価値の高い有意義な場となった。

今回もセミナーや本学出展ブースに多くの方にご来場をいただき、気候環境を含めた強みのひとつである寒冷地工学をはじめ本学の力に大きな関心が寄せられた。



北見工業大学ブース



技術シーズ提供セミナー

■イベント名：北洋銀行ものづくりテクノフェア 2015
■日　　時：7 月 23 日（木）
■会　　場：アクセスサッポロ（札幌市）

今回で 9 回目となる北海道内のものづくり産業を振興する本イベントには、産業界を中心に過去最多の 209 社・団体が参加した。その内大学・高専からの出展は 11 件で、展示技術に興味を持ち参加した来場者数も過去最大の約 4 千 4 百人となった。

本学ブースでは、平成 25 年度より設置・展開している「研究ユニット」の研究プロジェクト 9 つを紹介し、その中でも、医工連携、工農連携、冬季スポーツ研究ユニットで取り組まれている研究について詳細に展示・紹介した。工業大学が取り組む「医」「農」そして「冬季スポーツ」に多くの方の関心が寄せられた。同会場に設置された商談スペースでは終日多くの商談が展開され、本学においても 3 件の商談が行われた。



開会式挨拶（高橋北海道知事）



北見工業大学ブース

■イベント名：道内企業と道内大学、高専、公設試の共同研究発掘フェア
■日　　時：7 月 23 日（木）
■会　　場：アクセスサッポロ（札幌市）

本イベントは、主に道内の企業向けに研究内容や研究室の設備や特徴などを分かりやすく紹介し、共同研究のきっかけをつくることを目的として「北洋銀行ものづくりテクノフェア 2015」と同時開催された。本学からは内島産学官連携コーディネーターが「共同研究

へのお誘い」と題し、大学をとりまく特徴的な環境やその中で展開される教育・研究について紹介を行った。その後、情報システム工学科桝井文人准教授が取り組む3つの研究について発表を行い、約50名の参加をいただいた。それぞれが地域への活用を強く意識した研究の成果であり、新たな地域貢献の実現に向け発展していくことが期待された。



主催機関代表者による挨拶

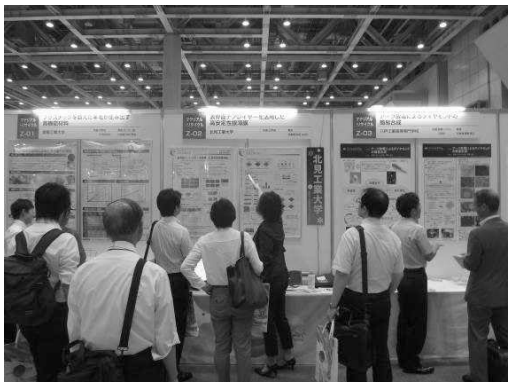


桝井准教授の発表の様子

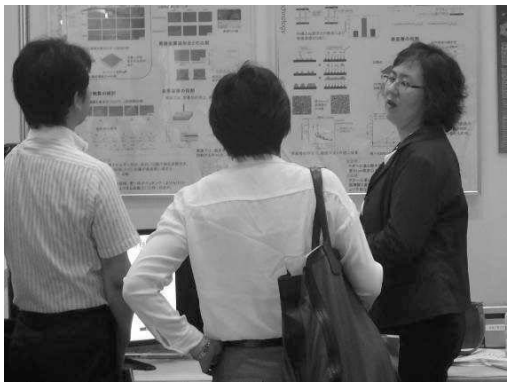
■イベント名：イノベーションジャパン2015大学見本市
■日　　時：8月27日（木）・28日（金）
■会　　場：東京ビッグサイト（東京都江東区）

独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）と、独立行政法人科学技術振興機構（JST）が連携した、我が国の産学連携を強力に推進するための国内最大規模の本イベントには、多くの大学やベンチャー企業等が出展した。研究成果や開発技術の展示、プレゼンテーションおよびセミナー等が行われ、2日間で約2万人の来場者が訪れた。

本学からは、マテリアル工学科川村みどり教授が取り組む、「表界面ナノレイヤーを活用した高安定性銀薄膜」に関する研究成果の出展が行われた。出展技術に対する多くの関心を反映し、本学ブースには絶え間なく来場者が訪れていた。本イベントは、出展する技術の背景となる社会の状況や関連市場などの情報を得ることができる貴重な場となるため、研究力向上につながる展示会として重視し、さらには出展を通じた本学のプレゼンス向上に大きく寄与できる機会として注力している。



北見工業大学ブース



来場者への技術説明を行う川村（み）教授

■イベント名：北洋銀行・帯広信用金庫 北の逸品インフォメーションバザール in Tokyo 2015
■日　　時：9月2日（水）・3日（木）
■会　　場：池袋サンシャインシティワールドインポートマートビル（東京都豊島区）

本イベントは北海道の加工食品や農産物等を首都圏に紹介し、市場における販売ルートの

開拓や販路の拡大を目指す実践的な商談会で、来場者は4千人を超える。本学は工農人材育成事業の成果発表ならびに人材育成のPRの場として参加している。本年度も受講生が試作品の試食アンケートを行い、今後の商品化へとつながる情報を得ることができた。また、工農事業の受講生でもある「農業法人有限会社香遊生活」「株式会社北見ハッカ通商」や北見市、北見観光協会、商工会議所も参加しており、産学官連携で地域と地域商品のPRを行った。

受講生にとっては、自らが開発した商品の首都圏における販売ルートの開拓や販路の拡大を目指すだけではなく、新たな開発に向けた情報共有とネットワーク構築に向けて価値のある場となった。



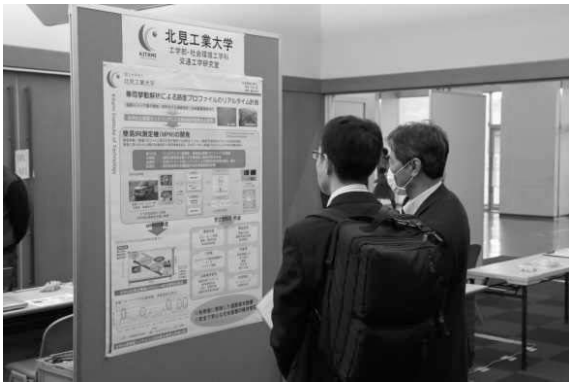
開会式挨拶（高橋北海道知事）



工農事業により開発した商品群

■イベント名：自動車技術会 2015 年秋季大会　産学ポスターセッション
■日時：10 月 14 日（水）～16 日（金）
■会場：西日本総合展示場（福岡県北九州市）

自動車技術会主催の 2015 年秋季大会では、「産学ポスターセッション～シーズとニーズの出会い～」が開かれ、3 日間を通して全国 28 大学の研究室からの自動車技術に関する研究成果の発表が行われた。本学は技術広報の一環として本ポスターセッションに参加し、社会環境工学科川村彰教授、富山和也助教が取り組む「車両挙動解析による路面プロファイルのリアルタイム計測技術」について紹介した。出展ブースには絶え間なく来場があり、3 日間で約 100 人が訪れた。情報共有はもちろんのこと、実用化に向けた具体的な話もあがり、研究の発展に有意義な機会となった。



研究について説明を行う川村（彰）教授



展示に使われたデモ機

■イベント名：メッセナゴヤ 2015
■日　　時：11 月 4 日（水）～7 日（土）

■会　　場：ポートメッセなごや（愛知県名古屋市）

本フェアは中京圏を中心とした自動車関連企業、名古屋地域のモノづくり企業が参加する日本最大級の異業種交流展示会で、本年度は過去最多となる 1,300 を超える企業・団体が出展し、来場者は約 6 万 3 千人にのぼった。

北海道では、中京圏市場に対し北海道内企業や学術機関の技術・製品等、高い技術のアピールを目的としたブースを設けた。自動車関連技術、医療、エネルギー、環境関連技術、寒冷地技術を活かした新エネルギー・省エネルギー化などの取り組みに焦点をあてた展示を道内 16 の企業と 5 つの大学が行った。本学からはマテリアル工学科阿部良夫教授が取り組む「スマートウィンドウ用の高耐久性水酸化物系エレクトロクロミック材料の開発」について紹介した。中京圏での技術紹介を行う充分な機会を持っていない本学において、大学広報の面からも貴重な場となった。

■イベント名：第 29 回北海道技術・ビジネス交流会（ビジネス EXPO）
■日　　時：11 月 5 日（木）～6 日（金）
■会　　場：アクセスサッポロ（札幌）

ビジネス EXPO は、例年 2 万人程の来場者を迎える北海道最大級のビジネスマッチングイベントで、産学官の関係諸機関が協力し開催している。

北海道科学技術総合振興センター（ノーステック財団）の「基礎的・先導的研究への支援事業」のブースでは、機械工学科の星野洋平准教授の農業機械関連の研究結果を展示し、先生自ら研究シーズの説明を行った。また、「学術・試験研究機関展示ゾーン」では、本学の大学の概要と 7 研究ユニットが取り組む研究を紹介した。北見地域からは他にも、北見市工業技術センター、倉本鉄工所、北見産学医協働センターによる技術展示が行われた。

本イベントには例年、本学出身者も数多く訪れ、就職等の情報収集にも大変役立つ良い機会であり、本学を紹介することの重要性を再確認する場となっている。



本学ブース



研究成果発表ブース（星野准教授）

■イベント名：アグリビジネス創出フェア 2015
■日　　時：11 月 18 日（水）～20 日（金）
■会　　場：東京ビッグサイト（東京都江東区）

■イベント名：2015 アグリビジネス創出フェア in Hokkaido
■日　　時：11 月 27 日（金）・28 日（土）
■会　　場：サッポロファクトリー（札幌市）

東京ビッグサイトで開催された「アグリビジネス創出フェア 2015」、サッポロファクトリーを会場に開催された「アグリビジネス創出フェア in 北海道」では、本学からバイオ環

境化学科佐藤利次准教授の「ラッカーゼを含むシイタケ栽培廃液による環境浄化」の研究について紹介し、両会場においてパネル展示とプレゼンテーションを行った。出展ブースでは、佐藤先生を中心に活動している工農連携研究ユニットの紹介や、社会連携推進センター有田敏彦教授が中心となって取り組んでいる「工農教育事業」の成果品についても展示･紹介を行った。会場には多くの企業の方の来場があり、「工業大学がなぜ食･農ですか？」との質問も出され、第 1 次産業と本学の関係、そして地域連携・貢献について説明するよい機会にもなり、本学の特徴を知っていただく場となった。



北見工業大学ブース（東京ビッグサイト）



佐藤准教授による成果発表



北見工業大学ブース（サッポロファクトリー）



有田教授によるプレゼンテーション

■イベント名：第 6 回地域を彩る食物語
■日　　時：1 月 13 日（水）～18 日（月）
■会　　場：コミュニティプラザパラボまちきた大通ビル（北見市）

北見市産学官連携推進協議会の主催、本学の共催で、高知物産展と同時開催される本イベントは本年で 6 回目となった。今回はパネル展示を含め新たに 6 大学が加わり、これまでも継続的に出展いただいている大学と本学を合わせ 12 大学、2 公的機関が参加する盛大なイベントとなった。

本学をはじめ、各大学で行われている人材育成事業の受講生によるプレゼンテーションと開発商品の販売が 14 日・15 日の両日にわたり行われ、16 日以降最終日までは「オホーツクブランド認証」商品を含めた本学関係受講者開発品について、市場調査と販売実習を兼ねた販売会とパネル展示が行われた。本学からはマネジメント工学コースの学生による大豆のアイスクリームの提案や、北見丸麦緑茶、カステララスクなど開発品の市場調査が行われた。本イベントは、全国の大学等が地域を元気にする活動に取り組んでいることを地域の多くの方々に理解していただく機会となり、また参加大学・機関にとっても、「食と

健康」・「人材育成」をキーワードとする地域興しの意識を広く共有し、それぞれの活動を発展させるための有益な機会となった。



講演会の様子



学生による開発品の市場調査

■イベント名：札幌モーターショー2016　～北海道自動車産業ゾーン～
■日時：1 月 22 日（金）～24 日（日）
■会場：札幌ドーム（札幌市）

3 日間で 10 万 6 千人以上の方が来場した本イベントには、本学は 2012 年の初回から参加している。北海道と独立行政法人中小企業基盤整備機構北海道本部が主催となり、北海道の自動車関連企業・団体の技術を紹介することを目的に会場内に設置された北海道自動車産業ゾーンでは、大学機関から北見工業大学、北海道大学の 2 大学、そして公的試験研究機関や北海道内企業の全 18 ブースでそれぞれに取り組む自動車関連技術が紹介された。

本学からは、大学の紹介とともに社会環境工学科川村彰教授、富山和也助教が取り組む「車両挙動解析による路面プロファイルのリアルタイム計測」の開発技術について紹介した。また「子どもクイズステージ」では、マネジメント工学コースの学生が、本学が取り組む自動車に関連する研究を基にクイズを企画し、多くの子どもたちがクイズに挑戦した。

本学のブースには、自動車の技術に興味を持つ企業の方はもちろんのこと、本学の卒業生や在校生とその父兄、さらには大学受験を控える高校生とその家族も訪れた。技術広報だけでなく大学広報としても価値の高い場となった。



来場者への技術説明を行う学生



「子どもクイズステージ」の様子

■イベント名：北海道地域４大学１高専１公設試新技術説明会
■日　　時：3 月 8 日（火）
■会　　場：JST 東京本部別館（東京都千代田区）

国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)と北海道大学産学連携本部が主催する北海道地域4大学1高専新技術説明会が、JST東京本部別館1Fホールを会場に開催された。本説明会は大学や公的研究機関等の研究者が研究成果の実用化に向けて広く共同研究のパートナーや開発技術の実施企業を募る場で、北見工業大学も協力機関として参画している。今回は大学関係者、産学官連携支援機関、産業界から約60人が来場した。

本学からは、電気電子工学科橋本泰成准教授が参加し、「脳インターフェースを使ったネット仮想空間の操作技術」と題して研究の成果を説明した。プレゼンテーションの後には研究の成果に興味を持つ企業の方々との個別相談が行われ、さらに深い技術や共同研究の可能性等について話し合いが行われた。新技術説明会は、発表者の研究力向上に繋がる貴重なネットワーク形成や、今後の研究・産学官連携の発展に向けた有意義な広報・情報交換の機会となった。



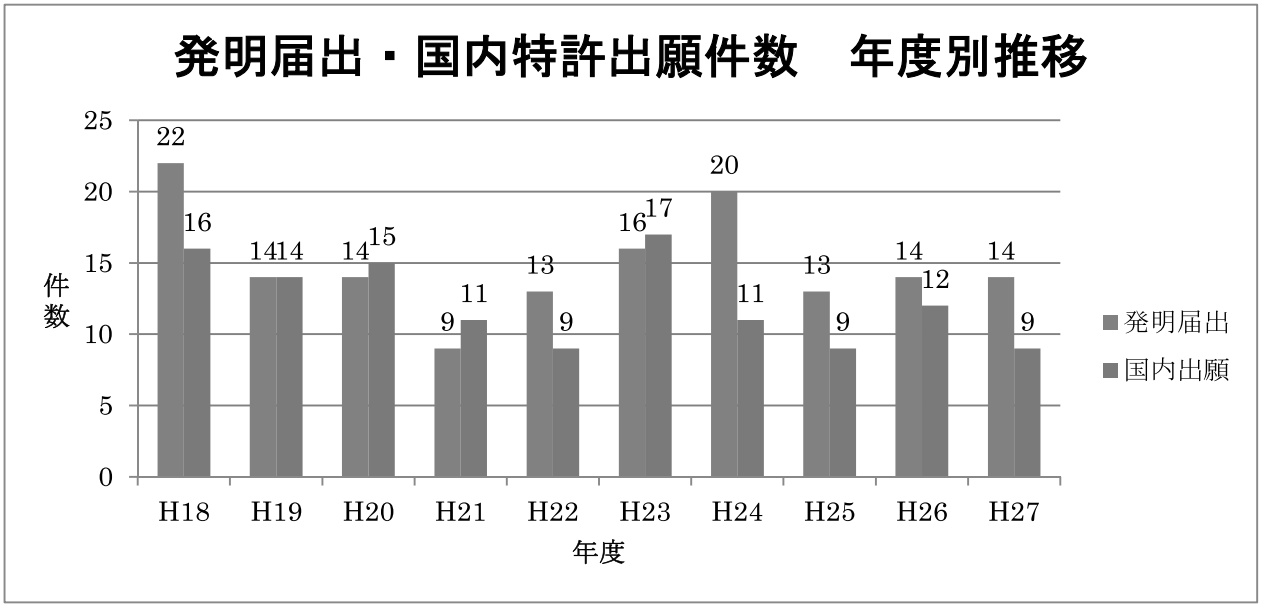
新技術説明会会場

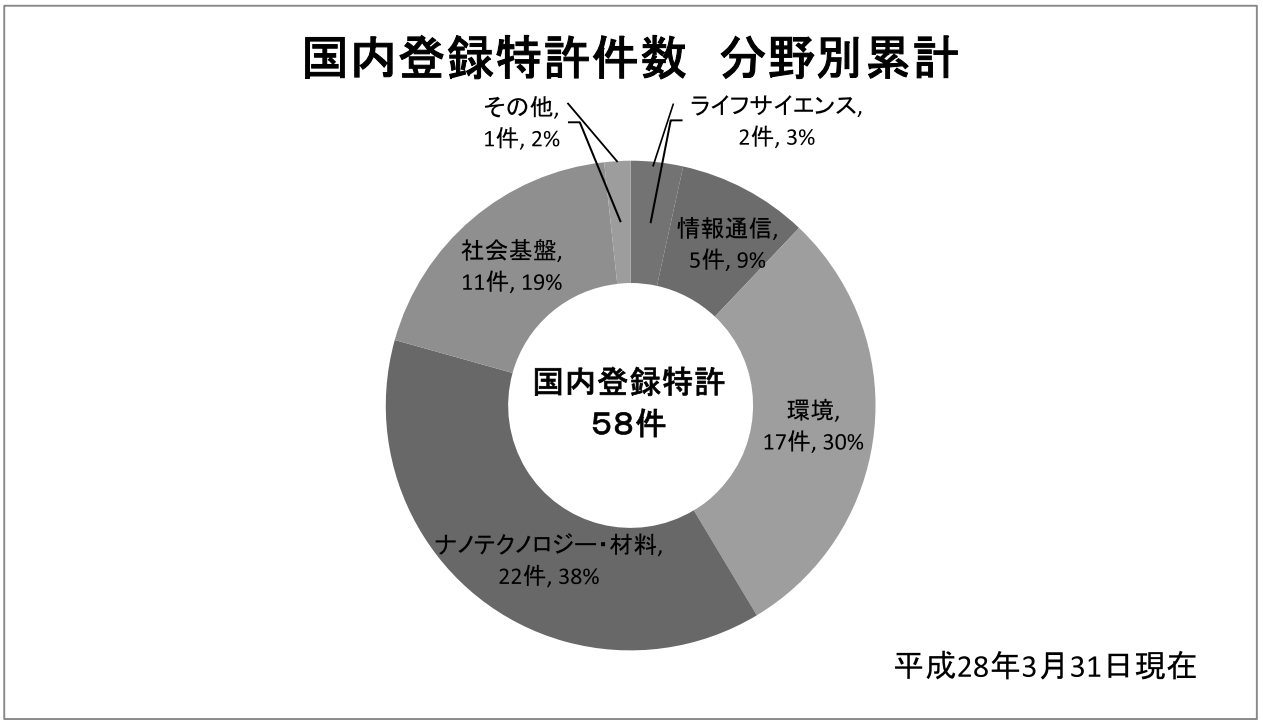


橋本准教授による研究説明

５）知的財産活動実績

本学では、研究の成果を知的財産として権利化し活用する活動を進めている。平成 21 年度から研究者ごとの個別面談をベースに知的財産活動の重点を研究より上流過程にシフトしており、研究の早い段階から知的財産面からの支援を行っている。また、近年、国内出願数が 10 件程度であるが、基本的な知的財産活動の趣旨を啓発から質的向上へとフェーズアップさせている。国内登録特許件数は、所有する知的財産の評価・見直しを行いわずかに減少したが、例年とほぼ同じ件数を保っている。その技術分野は、ライフサイエンスをはじめ、情報通信、環境、ナノテクノロジー・材料など広範に及んでいる。





６）産学連携学会第 13 回大会（北見大会）を開催

平成 27 年 6 月 25・26 日の両日、北見工業大学が共催校及び会場として産学連携学会の年次大会第 13 回大会を開催した。本学の社会連携推進センターが実行委員として準備・開催を担った。

産学連携学会はその目的として、「産学連携学の発展」と「産学連携活動従事者の資質向上」に加え、「地域での産学連携を通した産業振興の支援」をも掲げている。本大会を北見で開催することにより北見地域における産学連携推進に大きなインパクトを与えることができた。また全国の地方・地域において産学官連携を通して産業・文化の振興に取り組む関係者にとっても、さらには中央に在り地方の大学と地方創生を考える立場の関係者にとっても有意義な大会となった。参加者はおよそ 300 人であった。発表は、一般講演 141 件、オーガナイズドセッション 4 セッション 20 件、そしてポスターセッション 16 件の総計 177 件であった。開催地である北見とその近隣地域からの発表は 20 件程にのぼった。

開会式では、大会長・髙橋信夫北見工業大学長による開会宣言、伊藤正実産学連携学会長・群馬大学教授の挨拶の後、文部科学省の坂本修一産業連携・地域支援課長、経済産業省の宮本岩男大学連携推進室長をはじめとするご来賓の方々からご挨拶をいただいた。特別講演では北見市にある株式会社しんやの新谷有規代表取締役社長から、「ホタテによる日本の牽引を目指して－仲買から養殖、そして加工・販売へ－」と題し、地方から日本を元気にする 6 次産業の実例を紹介いただいた。引き続き、「産業界から見た地域『産学官連携』」と題するシンポジウムを行った。地域産業界から倉本登倉本鉄工所代表取締役社長、自治体から山崎毅匡北海道オホーツク総合振興局産業振興部長、学会から伊藤正実産学連携学会長、大学から川村彰北見工業大学社会連携推進センター長にそれぞれ登壇・プレゼンテーションをいただき、文部科学省の坂本修一課長、経済産業省の宮本岩男室長に国の立場からのコメントをいただいた。大学と学会に対し社会から求められる役割について、特に地方の環境を背景とする地域システムにおけるそれらについて議論を行い、「大学およびその産学連携活動評価」、「地方における大学の価値」、「人材育成」、「大学における研究管理」など、本大会の主要な論点を確認した。また、昨年産学連携学会が国際交流協定を結んだ韓国の産学協力学会から Woo-Seung Kim 会長にお越しいただき、「産学協力学会（韓国）／産学連携学会（日本）連携への期待」と題する日韓ワークショップも併催し、両学会関係者によるパネルディスカッションを行った。



開　会　式



シンポジウム

一般講演とオーガナイズドセッションの全 36 に及んだ口頭発表セッションでは、産学連携による学生・社会人の教育、産学連携人材の育成など人材育成への関心が高く、関連セッションでの発表が 3 割を越えた。地方・地域における産学官連携への期待も大きく、関連の先進事例や新たな取

り組みなど連携プロジェクトのセッションでの発表も3割程を占めた。また地方・地域における大学の存在価値を背景とする産学官連携活動や大学の評価にも強い関心が寄せられ、それらセッションでの発表も3割程となった。特に産学官連携指標モデル事業に関するオーガナイズドセッションでは、各大学の個性とその存在地域の特性に合わせた大学のあり方・評価について白熱した議論が行われた。

地方創生が社会的な強い要求となっているこの時期に、典型的な地方・地域環境にある北見で産学連携学会の年次大会を開くことができた意義は大きい。



ポスターセッション



一般講演

７）地域再生人材育成プログラムの推進

「工学連携推進型地域６次産業人材育成事業」第 10 期の実施

【（旧）新時代工学的農業クリエーター人材創出プラン】

平成 18 年度より 5 年間続けてきました「新時代工学的農業クリエーター人材創出プラン」は、平成 23 年度においては北見市の協力により「産学官連携第 6 次産業人材育成事業」として、平成 24 年度はオホーツク総合振興局「オホーツク「食」の地域資源付加価値向上事業」により継続することができ、平成 25 年度においては北見市の協力により「地域資源付加価値向上 6 次産業人材育成事業」として実施できました。また、これまで同様国立大学法人がこの種の事業に直接採択いただけないため、北見工業大学発ベンチャー企業である企業組合北見産学医協働センターが事業採択を受け、大学の人材育成を連携して運営するという形式で進めました。

(1) 開発課題概要

① 超強力粉（ゆめちから）を活用した新商品開発

北見市雇用創造協議会との連携で進めている地場産材の有効活用による商品開発の一環として行っている。超強力粉（ゆめちから）を用い、ホタテ棒、白花豆ラスク等の試作を行い、ラスクについては一定の成果を出すことができた。

② 白花豆を活用した新商品開発

こちらも北見市雇用創造協議会との連携で進めた課題で、これまで和洋菓子の餡等としての活用が多かった白花豆を用い、白花豆ラスクを含め種々の検討を重ねた結果、その他に餅米アイスと北見丸麦緑茶を考案し、丸麦緑茶は製品化となった。

③ 北見産食材を利用した地域 6 次産業活性化への貢献（学生）

北見市やその周辺は、農林水産業の盛んな地域であり、1 次・2 次・3 次の各産業が連携する新しい形態の産業、6 次産業による活性化が期待されるので、その促進に向けた北見工業大学の貢献方法について考察した。北見産食材（大豆・玉ねぎ）と食材本来の良さを伝えるため、活用例を提示し、地元産材の普及に向けた市場開拓の提案を行う。大豆ワッフルバーガーと豆乳アイスの試作、試食を行った。

④ 微生物工学技術を基盤とした高等教育と地域貢献（学生）

北見市やその周辺は、農林水産業の盛んな地域であり、1 次・2 次・3 次の各産業が連携する新しい形態の産業、6 次産業による活性化が期待されるので、その促進に向けた北見工業大学の貢献方法について考察した。環境や食品から菌株単離と同定し、醗酵工学・微生物変換等の産業へ応用のため農業・食品等の衛生管理や防除技術について検討した。

(2) 地域の販売イベント等

①インフォメーションバザール in Tokyo 2015（東京都）

日　時：平成 27 年 9 月 2 日（水）10：00～17：00

　　平成 27 年 9 月 3 日（木）10：00～16：00

会　場：池袋サンシャインシティ　ワールドインポートマートビル 4 階

主　催：北洋銀行、帯広信用金庫

東京都で開催された「インフォメーションバザール in Tokyo 2015」へ参加した。本イベントは、「南の逸品商談会 in Tokyo 2015」と同時開催されたものであり、北海道及び南九州地域の食品を首都圏に向けて紹介し、市場における販売ルートの開拓や販路拡大を目指す実践的な商談会であった。本イベントでは、受講生２名が地域食品加工（特にオホーツク地域）に関するアンケートを行った。

本事業の過去の受講生の開発商品のPRなども行われており、修了生が継続して商品開発などに携わっていることで、本事業の有用性を確認できた。

②輝農祭～農業の活気を取り戻そう～（大空町）

日　時：平成27年10月18日（日）10：00～15：00

会　場：道の駅「メルヘンの丘めまんべつ」

主　催：輝農祭実行委員会

大空町で開催された「輝農祭」へ参加した。本イベントは、今年で13回目であり、有機農業を通して、食の安全や大切さを知ってもらうことを目的としている。

地元の小学生が育てたかぼちゃの販売、料理実習、近隣地域からの出店、地元小・中・高校生のステージや北見工業大学学生による、おもしろ科学実験の体験などのイベントが催された。

本イベントにおいても、受講生１名が販売実習を行った。

③食べる大切フェスティバル（北見市）

日　時：平成27年10月24日（土）10：00～15：00

会　場：サンドーム北見

主　催：コープ札幌

未来を作る子ども達への『食育』の場として、体験教育プログラムの内容やメニューを更に充実させ、「体験」と「学び」を通して「食べることの大切さ（食育）」を実感できるフェスティバルに育てることを目的に開催されました。

雇用創造協議会メンバー2名と学生１名が参加しました。

④名称空飛ぶ6次化大作戦（「ビジネスEXPO」との同時開催）

日　時：平成27年11月5日（木）、6日（金）10:00～17:30

会　場：アクセスサッポロ2階フリースペース

主　催：公益財団法人北海道科学技術総合振興センター

食のバリューチェーン形成のための各種支援事業を展開していますが、この度その一環として、昨年に引き続き「機能性食品開発をはじめとした付加価値向上のための6次産業化・農商工連携」と「道内の中小食品企業の輸出促進」を目的とした一次、二次、三次産業者間のマッチングイベントを企画し、「産」・「学」・「官」による製品・技術等の情報交流会では道内最大の「北海道技術・ビジネス交流会」と同時開催されました。本事業の成果品を北見産学医協働センターのブースとして出展いたしました。

⑤アグリビジネス創出フェア2015（東京都）

日　時：平成27年11月18日（水）～20日（金）10：00～17：00

会　場：東京ビッグサイト

主　催：農林水産省

東京都で開催されている「アグリビジネス創出フェア2015」に参加した。本イベントは、産学官の各機関が、農林水産・食に関する最新の技術を持ち寄り交流することを通じ、新

たなビジネスの芽を創出する事を目的として毎年開催されている。
ブースでは大学におけるバイオ関連研究内容の説明、人材育成事業についての情報提供などを行い、来場者との交流を図った。
本イベントには、来場者に商品 PR を行うとともに、商品についての意見、要望等を伺った。展示品については試食をしなかったため、バイヤーに製品を配り受講生に内容を知らせた。また、展示内容について情報交換を行い、各出品者に内容をフィードバックした。

⑥アグリビジネス創出フェア in Hokkaido（札幌市）
日　時：平成 27 年 11 月 27 日（金）～28 日（土）10：00～17：00
会　場：サッポロファクトリー
主　催：NPO 法人グリーンテクノバンク、農林水産省
本イベントは、“北海道の食と農の明日へ”と題し、北海道地域の農業、食品産業及び関連産業の活性化を目指し、産学官連携による技術開発の促進、起業化・事業家チャンスの発掘とビジネス・ネットワークの拡大を図るとともに、産業の技術開発と新技術の普及の大切さを市民に伝えることを目的としている。
農業、食品分野の技術交流展示、ステージプレゼンテーションなど一般の方にも開かれた展示会である。
本イベントへは、修了生２名の商品（大豆フレッシュソース他、おっからー）ならびに試作品の展示紹介、広くたくさんの方に認知していただけるよう紹介を行った。現在進めている開発商品へ利用可能な技術の知得とビジネス・ネットワークの拡大に努めた。

⑦地域を彩る食物語～大学からの発信 こだわりあるおいしいものの販売!!～
日　時：平成 28 年 1 月 13 日（水）～18 日（月）9：00～18：00（最終日は 17：00 まで）
会　場：コミュニティプラザパラボ 5 階
主　催：北見市産学官連携推進協議会
共　催：北見工業大学
各地域の大学が実施している食農人材養成事業の成果品等を発表するとともに、食農人材養成事業について市民の皆様に周知することを目的として北見工業大学が共催しているイベントである。
人材育成事業内容の発表、受講生の成果報告、事業の中で開発した商品や大学の技術を利用して製品化した商品を紹介し、“食と健康”、“人材育成”をキーワードとした地域興しの意識を広く共有し向上させることを目的としている。
本年で 6 回目を迎えるイベントで、今年から北見市産学官連携推進協議会が主催、北見工業大学が共催となったが、事業の趣旨は全く変わらず開催された。また、北見市の姉妹都市である高知市の産品、観光を PR する高知物産と同日程で開催した。



開会式挨拶（吉田会長）



来賓挨拶（辻北見市長）



共催者挨拶　北見工大(川村センター長)



会場の様子

(3)講演会等

①北見工業大学・帯広畜産大学・東京農業大学　3大学合同セミナー
「オホーツク発　産学官連携による新たなアグリ・フードビジネス」
日　時：平成27年8月21日（金）14：30～17：00
　　平成27年8月22日（土）　9：00～16：15
会　場：帯広畜産大学
　北見工業大学、東京農業大学、帯広畜産大学「地域再生人材創出拠点の形成」事業採択3大学の人材育成事業の受講生・修了生が新たな知識習得やプレゼンテーションスキルのスキルアップを図り、情報交換を通じて大学間や受講生・修了生同士の交流を深めることを目的として開催された。

②北見市技能普及講演会「ピクルスの魅力と可能性」
日　時：平成27年10月26日（月）14：00～16：00
会　場：北見市民会館実習室
主　催：北見市技能普及実行委員会
講　師：長谷部　直美氏（ぴくるす&干し野菜「アトリエhasebe」主宰）
　前年度に引き続き、北見発の技術である醸造免許のいらない酢の製造方法による食酢の活用についてご講演いただいた。本事業の受講生による試作レシピも公開された。

③講演会『日本一の集客実績を持つ道の駅「田園プラザ川場」に学ぶ』
　　「道の駅」の魅力は「食」の戦略
日　時：平成27年10月28日（水）15：00～16：30
会　場：ビッツアークホテル
主　催：北見市技能普及実行委員会
講　師：永井　彰一氏（田園プラザ川場　代表取締役）
　本講演は、日本一の集客実績を持つ「田園プラザ川場」の取り組みを講演により、観光と食に関係する諸団体および大学関係者の皆様を中心に集まっていただき、オホーツク圏の観光を含め「食」を中心とした産業振興へのきっかけづくりとした。

④北見市技能普及講演会「ピクルスの魅力と可能性」
日　時：平成28年3月28日（月）14：30～
会　場：オホーツクビアファクトリー
主　催：北見市技能普及実行委員会

講　師：長谷部　直美氏（ぴくるす&干し野菜「アトリエ hasebe」主宰）

本講演会はオホーツクビアファクトリーが取り組んだ、酢を用いた地域食材を活用した新商品の開発や技術普及などに係る講演会を実施し、地域の調理師会等のメンバー7 名に参加いただき開催した。また、職業人教育、産業人養成を促進し、あわせて地場産品の高付加価値化による取り組みの強化を図るとともに、これをきっかけに改めて当地域の食材のおいしさを知るとともに「食」の技能の普及と推進により、地域活性化を図る目的で開催された講演会であり、酢の活用に関する情報収集を含め参加した。受講生の開発したレシピも提案した。

(4) 今後について

本事業を通して各地で 6 次産業化の動きが活発化しており、本事業の本質である「第一次産業の工業化」に向けて徐々に地域の思いのベクトルがそろいつつある事を再確認できました。産学官連携による産業振興では、人材育成を行いつつ地域特性を生かした商品作りを試み、販促活動、市場調査を進めることが、かなり有効な手段と全国的に理解されてきていますので、今後さらなる強固な協力体制により継続できるよう努力していきます。

８）各種会議報告

◇社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議

会議名称	第１回社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議	
開催状況	日　　時	平成 27 年 10 月 20 日(火) 13:30～16:00
	審議事項	1　地方版総合戦略（地方創生）への取組みと地域連携
	報告事項	1　出席者からの情報提供

◇北見工業大学社会連携推進センター推進協議会

会議名称	北見工業大学社会連携推進センター推進協議会 平成 27 年度総会	
開催状況	日　　時	平成 27 年 4 月 23 日(木)　14:00～15:15
	審議事項	1　報告第 1 号　平成 26 年度事業報告
		2　報告第 2 号　平成 26 年度決算報告
		3　報告第 3 号　平成 26 年度監査報告
		4　議案第 1 号　平成 27 年度事業計画(案)
		5　議案第 2 号　平成 27 年度予算(案)
		6　議案第 3 号　規約の改正について
		7　議案第 4 号　役員改選について

◇北見市産学官連携推進協議会

会議名称	北見市産学官連携推進協議会	
開催状況	日　　時	平成 27 年 5 月 19 日(火)　13:30～14:40
	審議事項	1　報告第 1 号　平成 26 年度事業報告について
		2　報告第 2 号　平成 26 年度決算報告について
		3　報告第 3 号　平成 26 年度監査報告について
		4　議案第 1 号　平成 27 年度事業計画(案)について
		5　議案第 2 号　平成 27 年度予算(案)について

◇社会連携推進センター運営会議

会議名称	第1回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日　　時	平成27年4月2日(木) 13:30～14:30
	審議事項	1　平成26年度決算、及び平成27年度予算について
	報告事項	1　平成26年度外部資金受入状況について
		2　平成26年度第11回教育研究評議会について

会議名称	第2回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日　　時	平成27年5月7日(木) 13:30～14:45
	審議事項	1　中小企業家同友会オホーツク支部との連携について
		2　北見工業大学社会連携推進センター利用内規（案）について
		3　平成27年度CRC附属施設等運営費予算（案）について
		4　その他 ・北見市産学官連携推進協議会総会について
	報告事項	1　平成27年度第1回教育研究評議会について

会議名称	第3回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日　　時	平成27年6月1日(月) 14:00～14:55
	報告事項	1　産学連携学会第13回大会について
		2　平成27年度第2回教育研究評議会について

会議名称	第4回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日　　時	平成27年7月7日(火) 15:00～16:05
	審議事項	1　社会連携推進センター年報第13号（平成26年度）について
	報告事項	1　第27回国立大学法人共同研究センター長等会議について
		2　北洋銀行ものづくりテクノフェアについて
		3　平成27年度第3回教育研究評議会について

会議名称	第5回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日　　時	平成27年8月3日(月) 14:00～14:57
	審議事項	1　産学官連携推進員・協力員合同会議について
		2　市町村訪問について
	報告事項	1　平成27年度第4回教育研究評議会について

会議名称	第6回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日　　時	平成27年9月7日(月) 15:00～16:25
	審議事項	1　市町村訪問について
	報告事項	1　平成27年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）について
		2　第27回国立大学法人共同研究センター長等会議座長打ち合せについて
		3　第28回国立大学法人共同研究センター等教員会議について
		4　第27年度第5回教育研究評議会について

会議名称	第7回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日　　時	平成27年10月7日(水) 15:00～16:00
	審議事項	1　産学官連携推進員・協力員合同会議について
	報告事項	1　平成27年度第6回教育研究評議会について

会議名称	第8回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日　　時	平成27年11月9日(月) 9:00～10:10
	審議事項	1　CRC次年度以降計画の検討開始について
	報告事項	1　平成27年度第7回教育研究評議会について

会議名称	第9回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日　　時	平成27年12月7日(月) 15:00～16:35
	審議事項	1　スーパー連携大学院の授業科目について
		2　CRC次年度以降計画の検討について
		3　平成28年度特任職員について
		4　陸別町社会連携連絡協議会について
		5　「産学官連携ポリシー」「社会連携ポリシー」の作成について
		6　その他 ・「地域を彩る食物語」について
	報告事項	1　平成27年度第8回教育研究評議会について

会議名称	第10回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日　　時	平成28年1月6日(水) 15:00～16:40
	審議事項	1　地域を彩る食物語について
		2　江原大学での日韓シンポジウムについて
		3　共同研究アンケート調査結果について
		4　その他 ・産学官連携ポリシー(案)・社会連携ポリシー(案)について
	報告事項	1　平成27年度第9回教育研究評議会について

会議名称	第11回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日　　時	平成28年2月1日(月) 15:00～15:55
	審議事項	1　地方創生加速化交付金の活用について
	報告事項	1　平成27年度第10回教育研究評議会について

会議名称	第12回社会連携推進センター運営会議	
開催状況	日　　時	平成28年3月2日(水) 15:00～15:35
	審議事項	1　第3期中期目標・中期計画及びロードマップについて
		2　CRCの新体制について
	報告事項	1　平成27年度第11回教育研究評議会について
		2　防犯カメラ取付工事について
		3　北見市内遊休施設への実験設備等の移設について

凡　例

○	学　内
◆	学　外

９）平成 27 年度　活　動　日　誌

4 ／ 2（木）○第 1 回社会連携推進センター運営会議
4 ／ 20（月）◆北海道中小企業家同友会オホーツク支部　第 34 回定時総会
4 ／ 23（木）○北見工業大学社会連携推進センター推進協議会 平成 27 年度総会
4 ／ 25（土）◆産学連携学会リサーチ・アドミニストレーション研究会（東京）
4 ／ 28（火）◆平成 27 年度「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」公募説明会（宮城）
4 ／ 30（木）◆NEDO 新技術調査員　平成 27 年度年初報告会（神奈川）
5 ／ 7（木）○第 2 回社会連携推進センター運営会議
5 ／ 19（火）◆北見市産学官連携推進協議会平成 27 年度総会
5 ／ 20（水）◆北海道価値創造パートナーシップ会議 in 網走
～新たな北海道総合開発計画に向けて～（網走市）
5 ／ 22（金）◆第 30 回 2015 オホーツク「木」のフェスティバル
5 ／ 23（土）◆北見市管理職研修会
◆産学連携学会第 6 期第 9 回理事会（東京）
5 ／ 25（月）◆オホーツク産学官融合センター運営委員会
5 ／ 27（水）◆北見市中小企業振興審議会
◆平成 27 年度北見地域企業立地促進協議会総会
6 ／ 1（月）○第 3 回社会連携推進センター運営会議
6 ／ 3（水）◆中小企業家同友会オホーツク支部との交流会
6 ／ 5（金）◆文部科学省第 8 期科学技術・学術審議会　産業連携・地域支援部会
地域科学技術イノベーション推進委員会（第 1 回）（東京）
6 ／ 12（金）◆産業クラスター研究会オホーツク平成 27 年度定期総会
6 ／ 15（月）◆公益財団法人オホーツク地域振興機構平成 27 年度定時評議員会
6 ／ 19（金）◆コラボ産学官第 7 回本部通常総会・記念講演会（東京）
6 ／ 24（水）○産学連携学会第 6 期第 10 回理事会
6 ／ 25（木）○産学連携学会第 13 回大会
6 ／ 27（土）◆第 49 回おけと夏まつり（置戸町）
7 ／ 7（火）○第 4 回社会連携推進センター運営会議
7 ／ 8（水）◆情報技術まちづくり協議会セミナー
◆テクノトランスファ－in かわさき 2015（神奈川）
7 ／ 9（木）◆技術シーズ提供セミナー
7 ／ 11（土）◆留辺蘂小学校科学教室（留辺蘂町）
7 ／ 17（金）◆第 62 回北見ぼんちまつり舞踊パレード
7 ／ 23（木）◆北洋銀行ものづくりテクノフェア 2015（札幌市）
◆道内企業と道内大学、高専、公設試の共同研究発掘フェア（札幌市）
～産学官金連携で「まち・ひと・しごと創生」の実現を～
7 ／ 28（火）○平成 27 年度工学連携推進型地域 6 次産業人材育成事業開講式
7 ／ 29（水）◆子ども霞が関見学デー（東京）

8 / 3（月） ○第5回社会連携推進センター運営会議
8 / 19（水） ◆国立大学法人共同研究センター長等会議座長打ち合わせ（東京）
8 / 21（金） ◆フードバレーとかち人材育成事業 合同セミナーin 帯広畜産大学（帯広市）
8 / 27（木） ◆地域と未来を語る会
◆イノベーション・ジャパン2015-大学見本市-（東京）
◆シンポジウム『産学官による未来創造対話』
9 / 2（水） ◆インフォメーションバザール in Tokyo 2015（東京）
9 / 3（木） ◆第28回国立大学法人共同研究センター等教員会議（香川）
9 / 7（月） ○第6回社会連携推進センター運営会議
9 / 10（木） ◆市町村訪問（美幌町、津別町）
9 / 14（月） ○北海道地域大学等知的財産部門連絡会議
9 / 15（火） ◆市町村訪問（置戸町、訓子府町）
◆文部科学省第8期科学技術・学術審議会　産業連携・地域支援部会
地域科学技術イノベーション推進委員会（第2回）（東京）
9 / 17（木） ◆第27回国立大学法人共同研究センター長等会議（東京）
9 / 28（月） ◆市町村訪問（斜里町、清里町、小清水町、網走市、大空町）
9 / 29（火） ◆市町村訪問（遠軽町、湧別町、佐呂間町）
9 / 30（水） ◆市町村訪問（雄武町、興部町、西興部村、滝上町、紋別市）
10 / 7（水） ○第7回社会連携推進センター運営会議
10 / 14（水） ◆公益社団法人自動車技術会2015年秋季大会産学ポスターセッション（福岡）
10 / 20（火） ○社会連携推進センター産学官連携推進員・協力員合同会議
10 / 22（木） ○平成27年度北見工業大学第1回公開講座
10 / 26（月） ◆北見市技能普及実行委員会主催講演会「第2回ピクルスの魅力と可能性」
10 / 28（水） ◆北見市技能普及実行委員会主催講演会「道の駅の魅力は食の魅力」
11 / 4（水） ◆メッセナゴヤ2015（愛知）
11 / 5（木） ◆ビジネスEXPO「第29回北海道技術・ビジネス交流会」（札幌市）
11 / 4（火） ○第8回社会連携推進センター運営会議
11 / 12（水） ◆アグリビジネス創出フェア2014（東京）
11 / 17（火） ◆文部科学省第8期科学技術・学術審議会　産業連携・地域支援部会
地域科学技術イノベーション推進委員会（第3回）（東京）
11 / 18（水） ◆アグリビジネス創出フェア2015（東京）
11 / 24（火） ○平成27年度北見工業大学第2回公開講座
11 / 27（金） ◆2015アグリビジネス創出フェア in Hokkaido（札幌市）
12 / 7（月） ◆「科学的根拠に基づく健康寿命を伸ばす会【SPHLE】 設立記念講演会」（東京）
○第9回社会連携推進センター運営会議
12 / 16（水） ◆デザイナーフーズ株式会社「生命食セミナー（東京第10回）」（東京）
1 / 6（水） ○第10回社会連携推進センター運営会議
1 / 13（水） ◆地域を彩る食物語
1 / 22（金） ◆札幌モーターショー2016（札幌市）

1 / 28（木） ◆第 2 回産学連携学会リサーチアドミニストレーション研究会（東京）
1 / 29（金） ◆文部科学省第 8 期科学技術・学術審議会　産業連携・地域支援部会
地域科学技術イノベーション推進委員会（第 4 回）（東京）
1 / 30（土） ◆一般社団法人北海道建築士会北見支部総会
2 / 1（月） ○第 11 回社会連携推進センター運営会議
2 / 13（土） ○平成 27 年度北見工業大学第 3 回公開講座
2 / 15（月） ○小樽商科大学との文理融合事業に向けた意見交換
2 / 24（水） ◆日韓シンポジウム（韓国）
2 / 28（日） ◆共同研究及び国際交流に関する打合せ（ペルー）
3 / 2（水） ○第 12 回社会連携推進センター運営会議
3 / 8（金） ◆JST 新技術説明会（東京）
3 / 9（水） ◆ノーステック財団　第 5 回企画委員会（札幌市）
3 / 23（水） ◆産学連携活動に係る打合せ（札幌市、小樽市）
3 / 26（土） ○北見医工連携研究会オホーツク医学大会

2. 付録

・センター関連規程

・技術相談申込書

■ 社会連携推進センター関連の規程■

1. 北見工業大学社会連携推進機構規程
2. 北見工業大学社会連携推進センター要項
3. 北見工業大学社会連携推進センター利用内規
4. 北見工業大学研究推進機構規程
5. 北見工業大学社会連携推進センター産学官連携推進員要項
6. 北見工業大学社会連携推進センター産学官連携推進協力員内規

規程の詳細につきましては、本学ホームページご覧ください。

http://www.kitami-it.ac.jp/

平成　　年　　月　　日

所属：

役職：

氏名：

住所：〒

TEL：

FAX：

技 術 相 談 申 込 書

〈相談事項〉

〈 申込書送付先 〉

〒090-0013 北海道北見市柏陽町603番地2
国立大学法人北見工業大学社会連携推進センター
ＴＥＬ：0157－26－4161
ＦＡＸ：0157－26－4171
E-mail：chiiki@desk.kitami-it.ac.jp

国立大学法人北見工業大学　社会連携推進センター年報第14号　平成27年度

発行日　平成28年9月
発行者　国立大学法人 北見工業大学 社会連携推進センター
〒090-0013　北海道北見市柏陽町603番地2
TEL：0157－26－4161
FAX：0157－26－4171
E - mail：chiiki@desk.kitami-it.ac.jp
URL　：http://www.crc.kitami-it.ac.jp/



国立大学法人 北見工業大学 社会連携推進機構 社会連携推進センター
〒090-0013 北海道北見市柏陽町 603-2 TEL：0157-26-4161 FAX：0157-26-4171 E-mail：chiiki@desk.kitami-it.ac.jp